

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン メイジダイガク 学校法人 明治大学								
フリガナ大学の名称	メイジダイガク ダイガクイン 明治大学大学院 (Meiji University Graduate School)								
大学本部の位置	東京都千代田区神田駿河台一丁目1番地								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性の求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、文化の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>【博士前期課程】 建築・都市学専攻博士前期課程では、国際的持続性社会の発展に寄与する教育体系を構築し、建築学術の体系を踏まえた人間環境の持続的発展への貢献や、国際的な環境で建築・都市の創造・再生への貢献、国際的視野に立って、環境・社会・文化の持続可能な発展への貢献など、建築・都市学全般に対する柔軟な発想と特定分野における専門性を有し、かつ国際性豊かな高度専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】 博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、建築・都市学に関わる独創的・先端的な研究・開発や、国際的な環境における建築デザイン・都市デザインの実践における主導的役割、各芸術分野における創作活動での先導的役割等を担い、横断性・総合性・革新性をもって人間環境の持続的発展に貢献し、独創性を持って実社会で指導的な役割を担う研究者・教育者の養成を目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 理工学部 建築学科
	理工学研究科 Graduate School of Science and Technology 建築・都市学専攻 (M) Architecture and Urbanism Program	年	人	年次 人	人	修士 (工学・建築学・学術)	平成29年4月 第1年次	【生田キャンパス】 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1	
	建築・都市学専攻 (D) Architecture and Urbanism Program	3	7	—	21	博士 (工学・建築学・学術)	平成29年4月 第1年次	【中野キャンパス】 東京都中野区 中野4-21-1	
	計		87人	—	181人				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>理工学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気工学専攻 (M) [定員増] ( 7) (平成29年4月)</li> <li>機械工学専攻 (M) [定員増] ( 9) (平成29年4月)</li> <li>応用化学専攻 (M) [定員増] ( 5) (平成29年4月)</li> <li>情報科学専攻 (M) ( 40) (平成28年4月届出予定)</li> <li>情報科学専攻 (D) ( 3) (平成28年4月届出予定)</li> <li>数学専攻 (M) ( 15) (平成28年4月届出予定)</li> <li>数学専攻 (D) ( 3) (平成28年4月届出予定)</li> <li>物理学専攻 (M) ( 16) (平成28年4月届出予定)</li> <li>物理学専攻 (D) ( 3) (平成28年4月届出予定)</li> </ul> <p>先端数理科学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現象数理科学専攻 (M) [定員増] ( 5) (平成29年4月)</li> <li>先端メディアサイエンス専攻 (M) ( 45) (平成28年4月届出予定)</li> <li>先端メディアサイエンス専攻 (D) ( 6) (平成28年4月届出予定)</li> <li>ネットワークデザイン専攻 (M) ( 36) (平成28年4月届出予定)</li> <li>ネットワークデザイン専攻 (D) ( 3) (平成28年4月届出予定)</li> </ul> <p>理工学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築学専攻 (M) (廃止) (△76)</li> <li>建築学専攻 (D) (廃止) (△ 5)</li> <li>基礎理工学専攻 (M) (廃止) (△61)</li> <li>基礎理工学専攻 (D) (廃止) (△10)</li> <li>新領域創造専攻 (M) (廃止) (△35)</li> <li>新領域創造専攻 (D) (廃止) (△ 5)</li> </ul> <p>※平成29年4月学生募集停止</p>								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	建築・都市学専攻 (M)	60科目	34科目	0科目	94科目	30単位					
建築・都市学専攻 (D)	0科目	0科目	0科目	0科目	-単位						
教員組	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等			
			教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	理工学研究科		人	人	人	人	人	人		人
		建築・都市学専攻 (博士前期課程)		17 (17)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	27 (27)	0 (0)		28 (28)
		建築・都市学専攻 (博士後期課程)		11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)		0 (0)
		情報科学専攻 (博士前期課程)		9 (10)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (13)	0 (0)		16 (16)
		情報科学専攻 (博士後期課程)		9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)		0 (0)
		数学専攻 (博士前期課程)		8 (8)	2 (2)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)		6 (6)
		数学専攻 (博士後期課程)		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)		0 (0)
		物理学専攻 (博士前期課程)		9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)		13 (15)
		物理学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)		0 (0)
		先端数理科学研究科									
		先端メディアサイエンス専攻 (博士前期課程)		7 (7)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)		13 (13)
	先端メディアサイエンス専攻 (博士後期課程)		7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)		
	ネットワークデザイン専攻 (博士前期課程)		5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)		
	ネットワークデザイン専攻 (博士後期課程)		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)		
	計		55 (56)	29 (29)	13 (13)	0 (0)	97 (98)	0 (0)	- (-)		
	既設	法学研究科 公法学専攻 (博士前期課程)		26 (26)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)		11 (11)
		公法学専攻 (博士後期課程)		16 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)		1 (1)
		民事法学専攻 (博士前期課程)		19 (19)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)		8 (8)
		民事法学専攻 (博士後期課程)		16 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)		2 (2)
		商学研究科 商学専攻 (博士前期課程)		51 (51)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	52 (52)	0 (0)		4 (4)
		商学専攻 (博士後期課程)		41 (41)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	41 (41)	0 (0)		1 (1)
		政治経済学研究科 政治学専攻 (博士前期課程)		22 (22)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)		6 (6)
		政治学専攻 (博士後期課程)		19 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)		0 (0)
		経済学専攻 (博士前期課程)		25 (25)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)		2 (2)
		経済学専攻 (博士後期課程)		25 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)		0 (0)
経営学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)		32 (32)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	30 (30)			
経営学専攻 (博士後期課程)		27 (27)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)			
文学研究科 日本文学専攻 (博士前期課程)		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)			
日本文学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)			
英文学専攻 (博士前期課程)		8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)			
英文学専攻 (博士後期課程)		7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)			

織

設

の

概

仏文学専攻（博士前期課程）	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (3)
仏文学専攻（博士後期課程）	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
独文学専攻（博士前期課程）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
独文学専攻（博士後期課程）	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
演劇学専攻（博士前期課程）	2 (2)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (2)
演劇学専攻（博士後期課程）	2 (2)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
文芸メディア専攻（修士課程）	5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
史学専攻（博士前期課程）	16 (16)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	11 (11)
史学専攻（博士後期課程）	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
地理学専攻（博士前期課程）	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	3 (3)
地理学専攻（博士後期課程）	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
臨床人間学専攻（博士前期課程）	11 (11)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	22 (22)
臨床人間学専攻（博士後期課程）	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
情報コミュニケーション研究科 情報コミュニケーション学専攻 （博士前期課程）	16 (16)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	13 (13)
情報コミュニケーション学専攻 （博士後期課程）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
教養デザイン研究科 教養デザイン専攻 （博士前期課程）	25 (25)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	3 (3)
教養デザイン専攻 （博士後期課程）	21 (21)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	1 (1)
国際日本学研究科 国際日本学専攻 （博士前期課程）	20 (20)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	9 (9)
国際日本学専攻 （博士後期課程）	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
グローバル・ガバナンス研究科 グローバル・ガバナンス専攻（博士後期課程）	9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
理工学研究科 電気工学専攻（博士前期課程）	13 (14)	11 (13)	2 (2)	0 (0)	26 (29)	0 (0)	5 (5)
電気工学専攻（博士後期課程）	13 (14)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (20)	0 (0)	0 (0)
機械工学専攻（博士前期課程）	13 (13)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	3 (3)
機械工学専攻（博士後期課程）	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
応用化学専攻（博士前期課程）	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
応用化学専攻（博士後期課程）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
先端数理科学研究科 現象数理学専攻 （博士前期課程）	6 (11)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (18)	0 (0)	4 (4)
現象数理学専攻 （博士後期課程）	6 (12)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (19)	0 (0)	3 (3)
農学研究科 農芸化学専攻（博士前期課程）	6 (6)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
農芸化学専攻（博士後期課程）	6 (6)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
農学専攻（博士前期課程）	9 (9)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	19 (19)
農学専攻（博士後期課程）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
農業経済学専攻（博士前期課程）	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
農業経済学専攻（博士後期課程）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)

要 分	生命科学専攻（博士前期課程）	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	9 (9)
	生命科学専攻（博士後期課程）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）	42 (42)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	36 (36)
	ガバナンス研究科 ガバナンス専攻 （専門職学位課程）	11 (11)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	58 (58)
	グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻（専門職学位課程）	16 (16)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
	会計専門職研究科 会計専門職専攻 （専門職学位課程）	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)
	研究・知財戦略機構（大学院担当）	3 (3)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	国際連携機構（大学院担当）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	農場（大学院担当）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	大学院共通	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	6 (6)
	計	462 (469)	126 (129)	37 (37)	1 (1)	626 (636)	3 (3)	— (—)
	合 計	517 (525)	155 (158)	50 (50)	1 (1)	723 (734)	3 (3)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	488 (488)		476 (476)		964 (964)		
	技 術 職 員	36 (36)		12 (12)		48 (48)		
	図 書 館 専 門 職 員	32 (32)		3 (3)		35 (35)		
	そ の 他 の 職 員	30 (30)		0 (0)		30 (30)		
計	586 (586)		491 (491)		1077 (1077)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	255,985 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	255,985 m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	242,724 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	242,724 m <sup>2</sup>			
	小 計	498,709 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	498,709 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	700,753 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	700,753 m <sup>2</sup>			
合 計	1,199,462 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,199,462 m <sup>2</sup>				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	319,203 m <sup>2</sup> ( 319,203 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	319,203 m <sup>2</sup> ( 319,203 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	282室	209室	450室	30室 (補助職員 183人)	22室 (補助職員 24人)	補助職員にT A を含む		
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数				
	建築・都市学専攻			27 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	建築・都市学専攻	906,800[432,215] (881,933 [420,363])	17,901 [7,696] (17,549 [7,545])	12,408 [11,819] (12,408 [11,819])	35,745 (35,745)	5,703 (5,703)	0 ( 0 )	
	計	906,800[432,215] (881,933 [420,363])	17,901 [7,696] (17,549 [7,545])	12,408 [11,819] (12,408 [11,819])	35,745 (35,745)	5,703 (5,703)	0 ( 0 )	
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	28,705m <sup>2</sup>	3,440席		2,744,566冊				
体 育 館	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	15,622.42m <sup>2</sup>	バレーコート、テニスコート、ゴルフ練習場、プール等						

大学全体

大学全体

その他には農場、寄宿舍、借用地、附属学校施設を含む。

大学全体

大学全体

補助職員にT Aを含む

大学共有分図書数  
2,705,355  
[938,589]  
学術雑誌数  
39,416  
[13,750]  
電子ジャーナル数  
12,408  
[11,819]  
視聴覚資料は大学全体

大学全体

保存書庫を含む  
体育館には駿河台  
スポーツホール、中野多  
目的ホールを含む

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		3,966千円	3,987千円	3,987千円	－千円	－千円		－千円
		共同研究費等		30,494千円	30,738千円	30,984千円	－千円	－千円		－千円
		図書購入費	14,105千円	13,797千円	13,983千円	14,173千円	－千円	－千円		－千円
	設備購入費	188,172千円	176,475千円	173,962千円	171,484千円	－千円	－千円	－千円		
理工学研究科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
学生1人当り納付金	博士前期課程	1,120千円	920千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	博士後期課程	1,050千円	850千円	850千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、資産運用の果実及び寄付金その他収入をもって維持運営する。							
既設大学の状況	大学の名称	明治大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
大学の状況	法学部								【法学部，商学部，政治経済学部，文学部，経営学部，情報コミュニケーション学部】 (1・2年次) 東京都杉並区永福1-9-1 (3・4年次) 東京都千代田区神田駿河台1-1	
	法律学科	4	800	－	3,200	学士(法学)	1.13	昭和24年度		
大学の状況	商学部								【理工学部，農学部】 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1	
	商学科	4	1,000	－	4,000	学士(商学)	1.06	昭和24年度		
大学の状況	政治経済学部								【国際日本学部，総合数理学部】 東京都中野区中野4-21-1	
	政治学科	4	250	－	1,000	学士(政治学)	1.06	昭和24年度		
大学の状況	経済学科	4	610	－	2,440	学士(経済学)	1.10	昭和24年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	地域行政学科	4	140	－	560	学士(地域行政学)	1.15	平成14年度		
大学の状況	文学部								【国際日本学部，総合数理学部】 東京都中野区中野4-21-1	
	文学科	4	415	－	1,660	学士(文学)	1.09	昭和24年度		
大学の状況	史学地理学科	4	260	－	1,040	学士(文学)	1.13	昭和24年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	心理社会学科	4	100	－	400	学士(文学)	1.11	平成14年度		
大学の状況	理工学部								【国際日本学部，総合数理学部】 東京都中野区中野4-21-1	
	電気電子工学科	4	－	－	－	－	－	平成元年度		
大学の状況	電子通信工学科	4	－	－	－	－	－	平成元年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	電気電子生命学科	4	205	－	865	学士(工学)	1.05	平成19年度		
大学の状況	機械工学科	4	120	－	480	学士(工学)	1.04	平成元年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	機械情報工学科	4	120	－	480	学士(工学)	1.05	平成元年度		
大学の状況	建築学科	4	150	－	570	学士(工学)	1.10	平成元年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	応用化学科	4	110	－	440	学士(工学)	1.16	平成元年度		
大学の状況	情報科学科	4	110	－	425	学士(理学)	1.10	平成元年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	数学科	4	55	－	220	学士(理学)	1.03	平成元年度		
大学の状況	物理学科	4	55	－	220	学士(理学)	1.07	平成元年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	農学部									
大学の状況	農学科	4	130	－	520	学士(農学)	1.06	昭和24年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	食糧環境政策学科	4	130	－	520	学士(農学)	1.08	昭和24年度		
大学の状況	農芸化学科	4	130	－	520	学士(農学)	1.14	昭和28年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	生命科学科	4	130	－	520	学士(農学)	1.08	平成12年度		
大学の状況	経営学部		650		2,600		1.12		平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	経営学科	4	400	－	1,560	学士(経営学)	－	昭和28年度		
大学の状況	会計学科	4	150	－	640	学士(経営学)	－	平成14年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	公共経営学科	4	100	－	400	学士(経営学)	－	平成14年度		
大学の状況	情報コミュニケーション学部								平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	情報コミュニケーション学科	4	450	－	1,800	学士(情報コミュニケーション学)	1.11	平成16年度		
大学の状況	国際日本学部								平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	国際日本学科	4	350	－	1,400	学士(国際日本学)	1.11	平成20年度		
大学の状況	総合数理学部								平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	現象数理学科	4	80	－	320	学士(理学)	1.23	平成25年度		
大学の状況	先端メディアサイエンス学科	4	100	－	400	学士(理学)	1.27	平成25年度	平成19年度より学生募集停止 平成19年度より学生募集停止	
	ネットワークデザイン学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.10	平成25年度		

既	法学研究科										【法学研究科、商学研究科、政治経済学研究科、経営学研究科、文学研究科、情報コミュニケーション研究科】 東京都千代田区神田駿河台1-1
	公法学専攻										
設	博士前期課程	2	20	—	40	修士（法学）	0.87	昭和27年度			
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.66	昭和29年度			
大	民事法学専攻										【理工学研究科（建築学専攻国際プロフェッショナルコース、新領域創造専攻を除く）、農学研究科】 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1
	博士前期課程	2	20	—	40	修士（法学）	0.42	昭和27年度			
学	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.21	昭和29年度			
	商学研究科										
等	商学専攻										【教養デザイン研究科】 東京都杉並区永福1-9-1
	博士前期課程	2	35	—	70	修士（商学）	0.86	昭和27年度			
の	博士後期課程	3	6	—	18	博士（商学）	0.77	昭和29年度			
	政治経済学研究科										
状	政治学専攻										【理工学研究科新領域創造専攻、建築学専攻国際プロフェッショナルコース・先端数理科学研究科・国際日本学研究科】 東京都中野区中野4-21-1
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（政治学）	0.76	昭和27年度			
況	博士後期課程	3	5	—	15	博士（政治学）	0.40	昭和29年度			
	経済学専攻										
大	博士前期課程	2	35	—	70	修士（経済学）	0.66	昭和35年度			
	博士後期課程	3	7	—	21	博士（経済学）	0.09	昭和38年度			
学	経営学研究科										
	経営学専攻										
の	博士前期課程	2	40	—	80	修士（経営学）	0.91	昭和34年度			
	博士後期課程	3	8	—	24	博士（経営学）	0.62	昭和34年度			
状	文学研究科										
	日本文学専攻										
況	博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	1.16	昭和39年度			
	博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	2.33	昭和39年度			
大	英文学専攻										
	博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.25	昭和39年度			
学	博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.50	昭和39年度			
	仏文学専攻										
の	博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.24	昭和39年度			
	博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.33	昭和39年度			
状	独文学専攻										
	博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.16	昭和46年度			
況	博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和49年度			
	演劇学専攻										
大	博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.16	昭和46年度			
	博士後期課程	3	1	—	3	博士（文学）	1.00	昭和49年度			
学	文芸メディア専攻										
	修士課程	2	6	—	12	修士（文学）	1.41	平成23年度			
の	史学専攻										
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（史学）	0.76	昭和32年度			
状	博士後期課程	3	6	—	18	博士（史学）	0.99	昭和32年度			
	地理学専攻										
況	博士前期課程	2	5	—	10	修士（地理学）	0.50	昭和32年度			
	博士後期課程	3	2	—	6	博士（地理学）	0.33	昭和39年度			
大	臨床人間学専攻										
	博士前期課程	2	14	—	28	修士（人間学）	0.71	平成17年度			
学	博士後期課程	3	4	—	12	博士（人間学）	0.41	平成19年度			
	理工学研究科										
の	電気工学専攻										
	博士前期課程	2	75	—	150	修士（工学・学術）	1.03	平成5年度			
状	博士後期課程	3	6	—	18	博士（工学・学術）	0.71	平成5年度			
	機械工学専攻										
況	博士前期課程	2	77	—	154	修士（工学・学術）	0.89	平成5年度			
	博士後期課程	3	7	—	21	博士（工学・学術）	0.14	平成5年度			
大	建築学専攻										
	博士前期課程	2	76	—	152	修士（工学・学術）	0.90	平成5年度			
学	博士後期課程	3	5	—	15	博士（工学・学術）	0.46	平成5年度			



附属施設の概要	<p>名称：研究・知財戦略機構          目的：本大学において世界的水準の研究を推進するため、重点領域を定めて研究拠点の育成を図り、研究の国際化を推進するとともに、その成果を広く社会に還元する。          事業：①本大学における研究の戦略的推進、②研究を戦略的に推進するための研究環境の重点的整備、③研究資金確保のための活動、④研究の国際化推進のための活動、⑤研究面における社会との連携活動、⑥知的財産の創出、取得、管理及び活用</p>	
	<p>名称：国際連携機構          目的：本大学における国際的な教育交流及び学術・研究交流を推進し、本大学の教育・研究分野の高度化を図るとともに、教育・研究を通じ広く国際貢献を果たす          事業：①国際連携の推進に係る基本戦略の策定、②教育・研究を通じた国際貢献の推進</p>	
	<p>名称：図書館          目的：本大学の教育研究及び学習に必要な図書その他の学術情報資料を収集、整理、保存及び提供することにより、本大学における教育研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与する          所在地：          (中央図書館) 東京都千代田区神田駿河台1-1          (和泉図書館) 東京都杉並区永福1-9-1          (生田図書館) 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1          (中野図書館) 東京都中野区中野4-21-1          規模：延床面積28,705㎡(蔵書約270万冊、新聞・雑誌約3万9千タイトル、マイクロ資料、CD-ROM等の資料を所蔵)</p>	
	<p>名称：博物館          目的：資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、本大学の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行う          所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン地下1階          規模：商品部門、刑事部門、考古部門の3部門を持つ</p>	
	<p>名称：心理臨床センター          目的：臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査・研究を行うことにより、社会貢献を図るとともに、実習機関として臨床心理士の養成を行い、本大学の教育・研究に資する          所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン7階          設置年月：平成16年4月          規模：205.31㎡(面接室3、遊戯療法室2、待合室2)</p>	
	<p>名称：工作工場          目的：理工学部(主に機械系)学生に、教科目として数種の簡単な機械要素製作を行わせることにより、工作機械における基本的な加工技術を取得させ、機械の設計・製作に関する全体的な理解を深めることを設置の目的としている          所在地：神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 生田キャンパス内</p>	
	<p>名称：農場(黒川農場及び誉田農場)          目的：農場は、農場に関する実習その他の学生教育を行い、農場を活用した研究の推進を図るとともに、その成果を社会に還元する。          黒川農場          所在地：神奈川県川崎市麻生区          規模：総面積13.4ha、実習農場として利用されている          環境共生、自然共生、地域共生をコンセプトに未来型アグリエコファームを目指す          誉田農場          所在地：千葉県千葉市          規模：総面積26.1ha、農耕面積5.6ha。現在利用停止中</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	建築・都市計画設計研究 1	1前	2				○		4	2	1			集中	
	建築・都市計画設計研究 2	1後	2				○		4	2	1			集中	
	建築・都市計画設計研究 3	2前	4				○		4	2	1			集中	
	建築・都市計画設計研究 4	2後	4				○		4	2	1			集中	
	建築構造・建築材料研究 1	1前	2				○		5	1	1			集中	
	建築構造・建築材料研究 2	1後	2				○		5	1	1			集中	
	建築構造・建築材料研究 3	2前	4				○		5	1	1			集中	
	建築構造・建築材料研究 4	2後	4				○		5	1	1			集中	
	建築環境・建築設備研究 1	1前	2				○		2	2				集中	
	建築環境・建築設備研究 2	1後	2				○		2	2				集中	
	建築環境・建築設備研究 3	2前	4				○		2	2				集中	
	建築環境・建築設備研究 4	2後	4				○		2	2				集中	
	Architecture and Urban Design Studies 1	1前	2				○		3	1				集中	
	Architecture and Urban Design Studies 2	1後	2				○		3	1				集中	
	Architecture and Urban Design Studies 3	2前	2				○		3	1				集中	
	Architecture and Urban Design Studies 4	2後	6				○		3	1				集中	
	総合芸術研究 1	1前	2				○		3	2				集中	
	総合芸術研究 2	1後	2				○		3	2				集中	
	総合芸術研究 3	2前	4				○		3	2				集中	
	総合芸術研究 4	2後	4				○		3	2				集中	
小計 (20科目)		—	60	0	0		—		17	8	2	0	0		
建築学系特修科目群	建築史特論	1前		2			○							兼1	隔年
	建築構法計画特論	1前		2			○				1			兼1	隔年
	まちづくり特論	1後		2			○			1					集中
	近代建築史特論	1前		2			○							兼1	隔年
	建築意匠特論	1前		2			○		1						隔年
	都市史特論	1後		2			○			1					隔年
	建築計画特論	1前		2			○		2						共同・集中
	都市計画特論	1前		2			○		1						
	建築マネジメント特論	1後		2			○							兼1	
	都市解析特論	1前		2			○							兼1	集中
	設計スタジオA	1前		4				○	1					兼2	共同
	設計スタジオB	1後		4				○	1	1	1				共同・集中
	設計スタジオC	1前		4				○	1	1				兼1	共同・集中
	インターンシップ (意匠)	1前		4				○	1						集中
	構造性能特論	1前		2			○		1						
	木質構造特論	1前		2			○			1					
	鉄筋コンクリート構造特論	1後		2			○		1						
	先端建築特論	1後		2			○		1						
	鋼構造特論	1前		2			○							兼1	
	シェル・空間構造特論	1後		2			○				1				
	耐震構造特論	1後		2			○		1						
	建築振動特論	1前		2			○		1						
	建築材料特論	1前		2			○		1						
	資源循環特論	1後		2			○		1						隔年
	建築施工特論	1後		2			○							兼1	
	構造設計演習A	1前		2				○						兼1	集中
構造設計演習B	1後		2				○						兼1		
インターンシップ (構造)	1前		4				○	1						集中	
建築環境工学特論	1前		2			○		1							
建築環境解析特論	1後		2			○		1							
建築環境評価特論	1前		2			○			1						

選択必修科目	建築水環境特論	1前		2		○		1									
	給排水設備特論	1後		2		○		1									
	建築音響特論	1後		2		○			1								
	設備計画特論	1後		2		○			1								
	空調設備特論	1前		2		○			1								
	建築設備設計演習	1後		4		○								兼1			
	インターンシップ（設備）	1前		4		○			1							集中	
	国際建築都市デザイン系特修科目群	Independent Study A	1前		2		○		1	1							共同・集中
		Independent Study B	1後		2		○		1	1							共同・集中
		Advanced Design Studio A	1前		6		○		1	1					兼1		共同
Advanced Design Studio B		1後		6		○		3	1					兼2		共同	
Advanced Design Studio C		2前		6		○		2						兼2		共同	
Advanced Architectural Design		1前		2		○		1									
Advanced Urban Design		1前		2		○			1								
Urban and Architectural History		1前		2		○			1							集中	
Advanced Sustainable Design		1前		2		○		1								隔年	
Advanced Project Management		1後		2		○								兼1			
総合芸術系特修科目群	アート造形学	1後		2		○		1									
	デザインアート史	1前		2		○								兼1		集中	
	メディア図書館論	1後		2		○								兼1		集中	
	映像文化特論	1後		2		○		1									
	音楽コンテンツ特論	1前		2		○								兼1			
	写真コンテンツ特論	1後		2		○								兼1		集中	
	社会表象特論	1前		2		○								兼1			
	文芸コンテンツ特論	1前		2		○			1								
	アーカイブ・コンテンツ特論	1前		2		○		1									
	コンテンツ批評特論	1前		2		○		1									
	プレゼンテーション法	1後		2		○			1								
	映画と都市	1前		2		○		1									
	文学と都市	1後		2		○		1									
共通総合科目群	科学論文英語特論	1後		2		○								兼2		集中	
	理工学研究科総合講義A	1前		2		○								兼1		集中	
	理工学研究科総合講義B	1前		2		○								兼1		集中	
	学際領域特論A	1後		2		○								兼1		集中	
	学際領域特論B	1前		2		○								兼1		集中	
	小計（69科目）	—	0	164	0	—		17	8	2	0	0		兼28			
自由科目	理工学研究科基礎特論A	1前・後		2		○		1								集中	
	理工学研究科基礎特論B	1前・後		2		○		1								集中	
	理工学研究科基礎特論C	1前・後		2		○		1								集中	
	理工学研究科基礎特論D	1前・後		2		○		1								集中	
	理工学研究科基礎特論E	1前・後		2		○		1								集中	
	小計（5科目）	—	0	0	10	—		1	0	0	0	0					
合計（94科目）			—	60	164	10	—	17	8	2	0	0		兼28			
学位又は称号		修士（工学，建築学又は学術）		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
<p>1 30単位以上を修得しなければならない。 主要科目の中から専修科目（出願時選定科目）を選定し，その12単位以上を修得しなければならない。</p> <p>2 主要科目以外の科目から18単位以上を修得しなければならない。</p> <p>3 原則として第1年次に18単位以上を履修すること。</p> <p>4 担当指導教員から，その「研究指導」を受けたうえ，学位請求論文を作成し提出しなければならない。</p> <p>5 指導教員が研究指導上必要と認めた場合には，他研究科設置科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。</p> <p>6 指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに，大学院の科目理工学研究科共通基礎科目A, B, C, D, Eとして最大10単位まで履修することができる。ただし，修了要件には含まれない。</p>							1 学年の学期区分					2 学期					
							1 学期の授業期間					1 4 週					
							1 時限の授業時間					1 0 0 分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導	(研究指導)	1~3	-	-	-	-	-	-	10	2	0	0	0		
	小計(0科目) ※授業科目として開講せず	-	0	0	0	-	-	-	10	2	0	0	0		
合計(0科目)		-	0	0	0	-	-	-	10	2	0	0	0		
学位又は称号		博士(工学, 建築学又は学術)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(1) 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、2年又は1年で修了することができる。 (2) 研究指導担当者の中から指導教員(出願時の選定と同一)を選定し、指導教員による「研究指導」を受けなければならない。 (3) 「研究指導」の他、授業科目の中から指導教員が必要と認める科目を履修することができる。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			14週						
						1時限の授業時間			100分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導	(研究指導)	1~3	-	-	-	-	-	-	1	2	0	0	0		
	小計(0科目) ※授業科目として開講せず	-	0	0	0	-	-	-	1	2	0	0	0		
合計(0科目)		-	0	0	0	-	-	-	1	2	0	0	0		
学位又は称号		博士(工学, 建築学又は学術)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(1) 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、2年又は1年で修了することができる。 (2) 研究指導担当者の中から指導教員(出願時の選定と同一)を選定し、指導教員による「研究指導」を受けなければならない。 (3) 「研究指導」の他、授業科目の中から指導教員が必要と認める科目を履修することができる。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			14週						
						1時限の授業時間			100分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導	(研究指導)	1~3	-	-	-	-	-	-	11	4	0	0	0		
	小計(0科目) ※授業科目として開講せず	-	0	0	0	-	-	-	11	4	0	0	0		
合計(0科目)		-	0	0	0	-	-	-	11	4	0	0	0		
学位又は称号		博士(工学, 建築学又は学術)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
(1) 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、2年又は1年で修了することができる。 (2) 研究指導担当者の中から指導教員(出願時の選定と同一)を選定し、指導教員による「研究指導」を受けなければならない。 (3) 「研究指導」の他、授業科目の中から指導教員が必要と認める科目を履修することができる。							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	建築・都市計画設計研究 1	1前	2				○		4	2	1				集中
	建築・都市計画設計研究 2	1後	2				○		4	2	1				集中
	建築・都市計画設計研究 3	2前	4				○		4	2	1				集中
	建築・都市計画設計研究 4	2後	4				○		4	2	1				集中
	建築構造・建築材料研究 1	1前	2				○		5	1	1				集中
	建築構造・建築材料研究 2	1後	2				○		5	1	1				集中
	建築構造・建築材料研究 3	2前	4				○		5	1	1				集中
	建築構造・建築材料研究 4	2後	4				○		5	1	1				集中
	建築環境・建築設備研究 1	1前	2				○		2	2					集中
	建築環境・建築設備研究 2	1後	2				○		2	2					集中
	建築環境・建築設備研究 3	2前	4				○		2	2					集中
	建築環境・建築設備研究 4	2後	4				○		2	2					集中
	小計 (12科目)		—	36	0	0		—		11	5	2	0	0	
選択必修科目	建築史特論	1前		2			○								兼1 隔年
	建築構法計画特論	1前		2			○					1			隔年
	まちづくり特論	1後		2			○			1					集中
	近代建築史特論	1前		2			○								兼1 隔年
	建築意匠特論	1前		2			○		1						隔年
	都市史特論	1後		2			○			1					隔年
	建築計画特論	1前		2			○		2						共同・集中
	都市計画特論	1前		2			○		1						
	建築マネジメント特論	1後		2			○								兼1
	都市解析特論	1前		2			○								兼1 集中
	設計スタジオ A	1前		4				○	1						兼2 共同
	設計スタジオ B	1後		4				○	1	1	1				共同・集中
	設計スタジオ C	1前		4				○	1	1					兼1 共同・集中
	インターンシップ (意匠)	1前		4				○	1						集中
	構造性能特論	1前		2				○	1						
	木質構造特論	1前		2				○		1					
	鉄筋コンクリート構造特論	1後		2				○	1						
	先端建築特論	1後		2				○	1						
	鋼構造特論	1前		2				○							兼1
	シェル・空間構造特論	1後		2				○			1				
	耐震構造特論	1後		2				○	1						
	建築振動特論	1前		2				○	1						
	建築材料特論	1前		2				○	1						
	資源循環特論	1後		2				○	1						隔年
	建築施工特論	1後		2				○							兼1
	構造設計演習 A	1前		2				○							兼1 集中
	構造設計演習 B	1後		2				○							兼1
	インターンシップ (構造)	1前		4				○	1						集中
	建築環境工学特論	1前		2				○	1						
	建築環境解析特論	1後		2				○	1						
建築環境評価特論	1前		2				○		1						
建築水環境特論	1前		2				○	1							
給排水設備特論	1後		2				○	1							
建築音響特論	1後		2				○		1						

	設備計画特論	1後		2		○			1						
	空調設備特論	1前		2		○			1						
	建築設備設計演習	1後		4			○						兼1		
	インターンシップ（設備）	1前		4			○		1						集中
共通 総合 科目 群	科学論文英語特論	1後		2		○							兼2		集中
	理工学研究科総合講義A	1前		2		○							兼1		集中
	理工学研究科総合講義B	1前		2		○							兼1		集中
	学際領域特論A	1後		2		○							兼1		集中
	学際領域特論B	1前		2		○							兼1		集中
	小計（43科目）	—	0	100	0	—			11	6	2	0	0	兼19	
自 由 科 目	理工学研究科基礎特論A	1前・後		2		○			1						集中
	理工学研究科基礎特論B	1前・後		2		○			1						集中
	理工学研究科基礎特論C	1前・後		2		○			1						集中
	理工学研究科基礎特論D	1前・後		2		○			1						集中
	理工学研究科基礎特論E	1前・後		2		○			1						集中
	小計（5科目）	—	0	0	10	—			1	0	0	0	0		
合計（60科目）		—	36	100	10	—			11	6	2	0	0	兼19	
学位又は称号		修士（工学，建築学又は学術）		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>1 30単位以上を修得しなければならない。            主要科目の中から専修科目（出願時選定科目）を選定し，その12単位以上を修得しなければならない。</p> <p>2 主要科目以外の科目から18単位以上を修得しなければならない。</p> <p>3 原則として第1年次に18単位以上を履修すること。</p> <p>4 担当指導教員から，その「研究指導」を受けたうえ，学位請求論文を作成し提出しなければならない。</p> <p>5 指導教員が研究指導上必要と認めた場合には，他研究科設置科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。</p> <p>6 指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部にて在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに，大学院の科目理工学研究科共通基礎科目A, B, C, D, Eとして最大10単位まで履修することができる。ただし，修了要件には含まれない。</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				14週			
								1時限の授業時間				100分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築・都市学専攻(M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	主要科目	Architecture and Urban Design Studies 1	1前	2				○		3	1					集中
		Architecture and Urban Design Studies 2	1後	2				○		3	1					集中
		Architecture and Urban Design Studies 3	2前	2				○		3	1					集中
		Architecture and Urban Design Studies 4	2後	6				○		3	1					集中
		総合芸術研究 1	1前	2				○		3	2					集中
		総合芸術研究 2	1後	2				○		3	2					集中
		総合芸術研究 3	2前	4				○		3	2					集中
		総合芸術研究 4	2後	4				○		3	2					集中
小計 (8科目)		—	24	0	0	—			6	3	0	0	0			
選択必修科目	国際建築都市デザイン系特修科目群	Independent Study A	1前		2			○		1	1					共同・集中
		Independent Study B	1後		2			○		1	1					共同・集中
		Advanced Design Studio A	1前		6				○		1	1			兼1	共同
		Advanced Design Studio B	1後		6				○		3	1			兼2	共同
		Advanced Design Studio C	2前		6				○		2				兼2	共同
		Advanced Architectural Design	1前		2			○		1						
		Advanced Urban Design	1前		2			○			1					
		Urban and Architectural History	1前		2			○			1					集中
		Advanced Sustainable Design	1前		2			○		1						隔年
		Advanced Project Management	1後		2			○							兼1	
	総合芸術系特修科目群	アート造形学	1後		2			○		1						
		デザインアート史	1前		2			○							兼1	集中
		メディア図書館論	1後		2			○							兼1	集中
		映像文化特論	1後		2			○		1						
		音楽コンテンツ特論	1前		2			○							兼1	
		写真コンテンツ特論	1後		2			○							兼1	集中
		社会表象特論	1前		2			○							兼1	
		文芸コンテンツ特論	1前		2			○			1					
		アーカイブ・コンテンツ特論	1前		2			○		1						
		コンテンツ批評特論	1前		2			○		1						
プレゼンテーション法	1後		2			○			1							
映画と都市	1前		2			○		1								
文学と都市	1後		2			○		1								
環境と人文学	1前		2			○			1							
環境とデザイン	1前		2			○			1							
総合芸術特論	1後		2			○		1								
小計 (26科目)		—	0	64	0	—			6	4	0	0	0	兼10		
合計 (34科目)		—	24	64	0	—			6	4	0	0	0	兼10		
学位又は称号	修士 (工学, 建築学又は学術)	学位又は学科の分野			工学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
1 30単位以上を修得しなければならない。 主要科目の中から専修科目 (出願時選定科目) を選定し, その12単位以上を修得しなければならない。 2 主要科目以外の科目から18単位以上を修得しなければならない。 3 原則として第1年次に18単位以上を履修すること。 4 担当指導教員から, その「研究指導」を受けたうえ, 学位請求論文を作成し提出しなければならない。 5 指導教員が研究指導上必要と認めた場合には, 他研究科設置科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。 6 指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに, 大学院の科目理工学研究科共通基礎科目A, B, C, D, Eとして最大10単位まで履修することができる。ただし, 修了要件には含まれない。					1 学年の学期区分					2 学期						
					1 学期の授業期間					1 4 週						
					1 時限の授業時間					1 0 0 分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築学専攻 (M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	建築・都市計画設計研究 1	1前	2				○		3	2	1				
	建築・都市計画設計研究 2	1後	2				○		3	2	1				
	建築・都市計画設計研究 3	2前	4				○		3	2	1				
	建築・都市計画設計研究 4	2後	4				○		3	2	1				
	建築構造・建築材料研究 1	1前	2				○		5	1	1				
	建築構造・建築材料研究 2	1後	2				○		5	1	1				
	建築構造・建築材料研究 3	2前	4				○		5	1	1				
	建築構造・建築材料研究 4	2後	4				○		5	1	1				
	建築環境・建築設備研究 1	1前	2				○		2	1					
	建築環境・建築設備研究 2	1後	2				○		2	1					
	建築環境・建築設備研究 3	2前	4				○		2	1					
	建築環境・建築設備研究 4	2後	4				○		2	1					
	Architecture and Urban Design Studies 1	1前	2				○		3	1					
	Architecture and Urban Design Studies 2	1後	2				○		3	1					
	Architecture and Urban Design Studies 3	2前	2				○		3	1					
	Architecture and Urban Design Studies 4	2後	6				○		3	1					
小計 (16科目)	—	—	48	0	0	—	—	13	5	2	0	0			
選択必修科目	建築史特論	1前	2				○							兼1	隔年
	建築構法計画特論	1前	2				○				1				隔年
	まちづくり特論	1後	2				○			1					集中
	近代建築史特論	1前	2				○							兼1	隔年
	建築意匠特論	1前	2				○		1						隔年
	都市史特論	1後	2				○			1					隔年
	建築計画特論	1前	2				○		2						共同
	都市計画特論	1前	2				○							兼1	
	建築マネジメント特論	1後	2				○		1						
	都市解析特論	1前	2				○							兼1	集中
	設計スタジオ 1	1前	4					○	1					兼2	集中・共同
	設計スタジオ 2	1後	4					○		1	1			兼1	集中・共同
	設計スタジオ 3	1前	4					○	1	1				兼1	集中・共同
	インターンシップ (意匠)	1前	4					○	1						集中
	構造性能特論	1前	2					○	1						
	木質構造特論	1前	2					○		1					
	鉄筋コンクリート構造特論	1後	2					○	1						
	先端建築特論	1後	2					○	1						
	鋼構造特論	1前	2					○						兼1	
	シェル・空間構造特論	1後	2					○			1				
	耐震構造特論	1後	2					○	1						
	建築振動特論	1前	2					○	1						
	建築材料特論	1前	2					○	1						
	資源循環特論	1後	2					○	1						隔年
	建築施工特論	1後	2					○						兼1	
	構造設計演習 1	1前	2					○						兼1	集中
	構造設計演習 2	1後	2					○						兼1	
	インターンシップ (構造)	1前	4					○	1						集中
	建築環境工学特論	1前	2					○	1						
	建築環境解析特論	1後	2					○						兼1	
	建築環境評価特論	1前	2					○		1					
	建築水環境特論	1前	2					○	1						
給排水設備特論	1後	2					○	1							
建築音響特論	1後	2					○		1						
設備計画特論	1後	2					○		1						
空調設備特論	1前	2					○		1						
建築設備設計演習	1後	4					○						兼1		
インターンシップ (設備)	1前	4					○		1					集中	



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科 新領域創造専攻(M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	安全学研究 1	1前	2					○			2	1				
	安全学研究 2	1後	2					○			2	1				
	安全学研究 3	2前	4					○			2	1				
	安全学研究 4	2後	4					○			2	1				
	デジタルコンテンツ研究 1	1前	2					○			3	1				
	デジタルコンテンツ研究 2	1後	2					○			3	1				
	デジタルコンテンツ研究 3	2前	4					○			4	2				
	デジタルコンテンツ研究 4	2後	4					○			4	2				
小計 (8科目)		—	24	0	0			—		5	3	0	0	0		
選択必修科目	安全学特論	1前		2				○			1					兼中・オムニバス
	安全マネジメント特論	1前		2				○			1					兼1 集中
	社会心理特論	1後		2				○								兼中・オムニバス
	不確実性特論	1後		2				○			1					
	システム安全学特論 1	1前		2				○			1					兼1
	システム安全学特論 2	1後		2				○								兼1
	都市安全・都市再生特論	1前		2				○								兼1
	社会安全学特論 1	1後		2				○			1					
	社会安全学特論 2	1後		2				○			1					
	建築・都市再生学特論	1後		2				○								兼1 集中
	再生マネジメント特論	1後		2				○			1					兼中
	都市再生プロジェクト特論	1前		2				○			1					兼1 集中・共同
	ウェブデザイン	1後		2				○			1					
	アート造形学	1後		2				○			1					
	デザインアート史	1前		2				○								兼1
	メディア図書館論	1後		2				○			1					
	映像文化特論	1後		2				○			1					
	アート・コンテンツ特論 1	1前		2				○								兼1
	アート・コンテンツ特論 2	1後		2				○								兼1
	アート・コンテンツ特論 3	1前		2				○				1				
	アート・コンテンツ特論 4	1後		2				○			1					
	アーカイブ・コンテンツ特論	1前		2				○			1					
	コンテンツ批評特論	1前		2				○			1					
	デジタルコンテンツ制作概論	1後		2				○				1				
	コンピュータビジョン	1後		2				○								兼1
	メディアプログラミング演習 1	1前		2				○			1	1				兼中・オムニバス
	メディアプログラミング演習 2	1後		2				○			1					
小計 (27科目)		—	0	54	0			—		5	4	0	0	0	兼8	
選択必修科目	情報技術演習	1前		2				○			1	1				
	新領域創造特論 1	1前		2				○			6	3				オムニバス
	新領域創造特論 2	1後		2				○			6	3				兼中・オムニバス
	プレゼンテーション法	1後		2				○				1				
小計 (4科目)		—	0	8	0			—		6	3	0	0	0		
共通総合科目	科学論文英語特論	1前・後		2				○								兼2
	理工学研究科総合講義 A	1前		2				○				1				兼1
	理工学研究科総合講義 B	1後		2				○					1			
	理工学研究科総合講義 C	1前		2				○					1			兼中・オムニバス
	理工学研究科総合講義 D	1前		2				○		1						兼3
	理工学研究科総合講義 E	1前		2				○		1						兼中・オムニバス
	理工学研究科総合講義 F	1前		2				○		1						兼中・オムニバス
	学際領域特論 A	1前		2				○								兼1
	学際領域特論 B	1前		2				○								兼1
	学際領域特論 C	1後		2				○								兼1
	学際領域特論 D	1後		2				○								兼1
小計 (11科目)		—	0	22	0			—		2	0	2	0	0	兼11	

自由科目	共通基礎科目	理工学研究科基礎特論A	1前・後			2	○									兼1
		理工学研究科基礎特論B	1前・後			2	○									兼1
		理工学研究科基礎特論C	1前・後			2	○									兼1
		理工学研究科基礎特論D	1前・後			2	○									兼1
		理工学研究科基礎特論E	1前・後			2	○									兼1
	小計(5科目)		—	0	0	10	—		0	0	0	0	0	0	0	兼5
合計(55科目)			—	24	84	10	—		8	4	2	0	0	0	0	兼24
学位又は称号		修士(工学, 理学又は学術)		学位又は学科の分野				工学関係, 理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
①修了単位数を34単位以上とする。②主要科目の中から専修科目12単位を選定し, 修得しなければならない。③主要科目以外から18単位以上修得しなければならない。④指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。⑤指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに, 大学院の科目理工学研究科共通基礎科目A, B, C, D, Eとして最大10単位まで履修することができる。ただし, 修了要件には含まれない。							1学年の学期区分				2期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業時間				90分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科建築学専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究指導	(研究指導)	1~3	-	-	-	-	-	-	10	2	0	0	0	
	小計(0科目) ※授業科目として開講せず	-	0	0	0	-	-	-	10	2	0	0	0	
合計(0科目)		-	0	0	0	-	-	-	10	2	0	0	0	
学位又は称号		博士(工学又は学術)		学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
(1) 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、2年又は1年で修了することができる。 (2) 研究指導担当者の中から指導教員(出願時の選定と同一)を選定し、指導教員による「研究指導」を受けなければならない。 (3) 「研究指導」の他、授業科目の中から指導教員が必要と認める科目を履修することができる。							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科新領域創造専攻(D))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究指導	(研究指導)	1~3	-	-	-	-	-	-	3	2	0	0	0	
	小計(0科目) ※授業科目として開講せず	-	0	0	0	-	-	-	3	2	0	0	0	
合計(0科目)		-	0	0	0	-	-	-	3	2	0	0	0	
学位又は称号		博士(工学又は学術)		学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
(1) 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、2年又は1年で修了することができる。 (2) 研究指導担当者の中から指導教員(出願時の選定と同一)を選定し、指導教員による「研究指導」を受けなければならない。 (3) 「研究指導」の他、授業科目の中から指導教員が必要と認める科目を履修することができる。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				





	物理学系	基礎電磁気学	2春・秋	2		○							兼3		
		熱・統計力学基礎	2春・秋	2		○								兼2	
		振動波動論	2春・秋	2		○								兼3	
		現代物理学	2春・秋	2		○								兼3	
		物理学概論	2春・秋	2		○								兼1	
	化学系	基礎有機化学	2春・秋	2		○								兼3	
		基礎無機化学	2春・秋	2		○								兼3	
		基礎物理化学	2春・秋	2		○								兼1	
		物質・材料の化学	2春・秋	2		○								兼6	
		最先端化学	2春・秋	2		○								兼13	オムニバス
	情報系・その他	情報処理実習 1	2秋	1			○		1	1		1		兼13	共同
		情報処理実習 2	3秋	1			○							兼13	共同
		情報処理 1	1秋	2		○								兼9	
情報処理 2		3春	2		○		1						兼7		
基礎電気回路 1		1春	2		○								兼8		
基礎電気回路 2		1秋	2		○								兼7		
科学技術英語 1		3春	2		○								兼13	兼中・共同	
科学技術英語 2		3秋	2		○								兼13	兼中・共同	
小計 (26科目)	-	0	50	0	-		2	1		1		兼95			
専門教育科目	学科専門科目	建築学概論	1春	2		○		4	5				兼1	オムニバス	
		建築法規	3秋	2		○				1			兼1	オムニバス	
		Architecture in English	4春	2		○		3	3	1			兼5	オムニバス	
		建築製図基礎	1春	2		○					2		兼1	共同	
		建築設計 1	1秋	3					1		2		兼5	共同	
		建築設計 2	2春	3			○		1	1			兼6	共同	
		建築設計 3	2秋	3			○		1	1	1		兼6	共同	
		計画・設計スタジオ 1	3春	2			○		1				兼7	共同	
		計画・設計スタジオ 2	3秋	2			○		1	1			兼5	共同	
		計画・設計スタジオ 3	4春	2			○			1			兼4	共同	
		造形演習	1春	2			○				1		兼1	共同	
		建築デザイン概論	1秋	2			○		1						
		住環境デザイン論	2春	2			○		1	1					オムニバス
		建築計画	3春	2			○		1						
		都市計画	2秋	2			○							兼1	
		地域計画	3春	2			○			1					
		都市デザイン	3秋	2			○			1					
		建築構法 1	2春	2			○				1				
		建築構法 2	3秋	2			○				1				
		西洋建築史	2秋	2			○			1					
		近代建築史	3春	2			○			1					
		日本建築史	3秋	2			○							兼1	
		古建築実習	4秋	2				○		2		1			兼中・共同
		建築設計論	2秋	2			○		2					兼1	オムニバス
		建築意匠論	3秋	2			○			1					
		建築環境概論	1秋	2			○			1				兼1	オムニバス
		建築熱環境	2春	2			○		1						
		建築光環境	2秋	2			○			1					
		建築音環境	3春	2			○			1					
		建築空気環境	3秋	2			○		1						
		建築環境実験 1	3春	2				○	2	1					共同
		建築環境実験 2	3秋	2				○	1	2					共同
		建築設備概論	2春	2			○		1						
		空調計画	2秋	2			○			1					
空調設備	3春	2			○			1							
給排水設備	3秋	2			○		1								
環境設備設計	4春	1			○			1				兼1			
環境設備実習	4秋	2				○	1	2					兼中・オムニバス		
応用力学 1	1春	3			○		1	2							
応用力学 2	1秋	3			○		1		1			兼1			
構造力学 1	2春	2			○			2							
構造力学 2	2秋	2			○		1	1							
構造デザイン	1秋	2			○		1	1	1					オムニバス	
建築構造概論	2秋	2			○		1								
鉄筋コンクリート構造	3春	2			○		1								



授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科建築・都市学専攻(M))				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
必修科目	建築・都市計画設計研究1	(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。		
		(1 園田 眞理子) 対象とする研究分野・テーマ：少子・高齢化社会に対応した住宅・建築計画、郊外住宅地の持続と再生に関する計画  建築と人間の生活や社会との関係を理論的、実証的に研究し、建築空間のあり方を構想し、その具体的な計画と設計の方法を明らかにし普遍化することは建築学術の重要な基盤である。この観点から建築計画、住環境計画に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(2 田中 友章) 対象とする研究分野・テーマ：場所に応答する敷地計画に関する研究、複数敷地区画の包括的・協調的計画に関する研究  多様なスケールの人間環境について、行為や使われ方、敷地や周辺環境の特性などの外的要因と建築の構成・空間の関係を理論的に考究し、合わせて実践へ向けた技法や知見を獲得することを目的として、建築計画・設計および敷地計画に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(3 山本 俊哉) 対象とする研究分野・テーマ：都市のリノベーション、エビデンスに基づいた安全・安心、クリエイティブシティ・地域のコラボレーションを促進する計画技術など次世代型の都市計画に関する研究  建物をはじめとする構築物を集団的に捉え、その人間環境の安全性を基礎とした計画や再生、マネジメントのあり方が問われており、この観点から都市計画・都市再生・地域マネジメントおよび地域安全論に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(16 大河内 学) 対象とする研究分野・テーマ：建築の設計手法、空間理論、計画理論  都市と建築、人間と建築、自然環境の中に人間が生活する空間がいかに構想されるべきか、社会や過去の先例に学びながら新しい建築空間の創造を目指し、建築空間論・建築意匠・建築設計論に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(18 青井 哲人) 対象とする研究分野・テーマ：アジア都市史・住居史研究、植民都市・建築研究、近代建築史研究、近代神社の建築史的・環境史的研究  人間環境の成り立ちについて歴史的・理論的に考究し、その現在の規定と未来の構想のための視座を獲得することは、建築学術の重要な基盤であり、この観点から建築史・都市史・領域史（環境史）および建築論に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(19 川嶋 雅章) 対象とする研究分野・テーマ：農山村地域や都市近郊地域の地域計画・農村計画に関する研究、土地利用計画・参加型まちづくり・都市農村交流に関する研究  集落から国土づくりにおいて、豊かで美しい地域環境と、活力と魅力にあふれる地域社会の創出を目指すために、地域づくりの計画や技術手法に関する研究が必要である。この観点から具体的な地域の課題に着目して地域計画学に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		(26 門脇 耕三) 対象とする研究分野・テーマ：建築構法および建築構法計画に関する研究  建物をはじめとする構築物を、人間環境の創造にまつわるあらゆる行為を媒介する物理的実体として捉え、その構築の原理を明らかにすることを目的として、建築構法および建築構法計画に関する研究を行う。本科目では、先行研究の収集・精読を通じて研究分野の蓄積と概況を学ぶとともに、研究の目的・独自性および枠組・方法に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。		
		建築・都市計画設計研究2	(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。	
			(1 園田 眞理子) 対象とする研究分野・テーマ：少子・高齢化社会に対応した住宅・建築計画、郊外住宅地の持続と再生に関する計画  建築・都市計画設計研究1に引き続き、建築計画、住環境計画に関する研究を行う。本科目では、先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに、研究方法の検討を踏まえて、具体的な文献研究・現地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また、これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、研究の枠組・方法などを検証し、博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。	

	<p>(2 田中 友章) 対象とする研究分野・テーマ：場所に応答する敷地計画に関する研究，複数敷地区画の包括的・協調的計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，建築計画・設計および敷地計画に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
	<p>(3 山本 俊哉) 対象とする研究分野・テーマ：都市のリノベーション，エビデンスに基づいた安全・安心，クリエイティブシティ・地域のコラボレーションを促進する計画技術など次世代型の都市計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，都市計画・都市再生・地域マネジメントおよび地域安全論に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
	<p>(16 大河内 学) 対象とする研究分野・テーマ：建築の設計手法，空間理論，計画理論</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，建築空間論・建築意匠・建築設計論に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
	<p>(18 青井 哲人) 対象とする研究分野・テーマ：アジア都市史・住居史研究，植民都市・建築研究，近代建築史研究，近代神社の建築史的・環境史的研究</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，建築史・都市史・領域史（環境史）および建築論に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
	<p>(19 川嶋 雅章) 対象とする研究分野・テーマ：農山村地域や都市近郊地域の地域計画・農村計画に関する研究，土地利用計画・参加型まちづくり・都市農村交流に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，具体的な地域の課題に着目して地域計画学に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
	<p>(26 門脇 耕三) 対象とする研究分野・テーマ：建築構法および建築構法計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究1に引き続き，建築構法および建築構法計画に関する研究を行う。本科目では，先行研究の整理・批判および研究計画の具体化を進めるとともに，研究方法の検討を踏まえて，具体的な文献研究・臨地調査・実験などを実施して仮説を構築する。また，これらに関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組・方法などを検証し，博士前期課程1年次の研究成果をまとめる。</p>	
建築・都市計画設計研究3	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで，建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査，研究計画の立案，研究の進捗状況の報告を通じて，建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また，研究内容に関するプレゼンテーション，指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(1 園田 真理子) 対象とする研究分野・テーマ：少子・高齢化社会に対応した住宅・建築計画，郊外住宅地の持続と再生に関する計画</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，建築計画，住環境計画に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
	<p>(2 田中 友章) 対象とする研究分野・テーマ：場所に応答する敷地計画に関する研究，複数敷地区画の包括的・協調的計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，建築計画・設計および敷地計画に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
	<p>(3 山本 俊哉) 対象とする研究分野・テーマ：都市のリノベーション，エビデンスに基づいた安全・安心，クリエイティブシティ・地域のコラボレーションを促進する計画技術など次世代型の都市計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，都市計画・都市再生・地域マネジメントおよび地域安全論に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
	<p>(16 大河内 学) 対象とする研究分野・テーマ：建築の設計手法，空間理論，計画理論</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，建築空間論・建築意匠・建築設計論に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	

	<p>(18 青井 哲人) 対象とする研究分野・テーマ：アジア都市史・住居史研究，植民都市・建築研究，近代建築史研究，近代神社の建築史的・環境史的研究</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，建築史・都市史・領域史（環境史）および建築論に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
	<p>(19 川嶋 雅章) 対象とする研究分野・テーマ：農山村地域や都市近郊地域の地域計画・農村計画に関する研究，土地利用計画・参加型まちづくり・都市農村交流に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，具体的な地域に着目して地域計画学に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
	<p>(26 門脇 耕三) 対象とする研究分野・テーマ：建築構法および建築構法計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究2に引き続き，建築構法および建築構法計画に関する研究を行う。本科目では，博士前期課程1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また再構築した研究計画に基づき，さらなる文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，得られた知見の評価と仮説の検証を行う。また，研究の進捗状況に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の枠組を確立する。</p>	
<p>建築・都市計画設計研究4</p>	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで，建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査，研究計画の立案，研究の進捗状況の報告を通じて，建築史・建築意匠・建築計画・都市計画・建築設計に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また，研究内容に関するプレゼンテーション，指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(1 園田 眞理子) 対象とする研究分野・テーマ：少子・高齢化社会に対応した住宅・建築計画，郊外住宅地の持続と再生に関する計画</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，建築計画，住環境計画に関する研究を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	
	<p>(2 田中 友章) 対象とする研究分野・テーマ：場所に応答する敷地計画に関する研究，複数敷地区画の包括的・協調的計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，建築計画・設計および敷地計画に関する研究と実践を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	
	<p>(3 山本 俊哉) 対象とする研究分野・テーマ：都市のリノベーション，エビデンスに基づいた安全・安心，クリエイティブシティ・地域のコラボレーションを促進する計画技術など次世代型の都市計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，都市計画・都市再生・地域マネジメントおよび地域安全論に関する研究を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	
	<p>(16 大河内 学) 対象とする研究分野・テーマ：建築の設計手法，空間理論，計画理論</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，建築空間論・建築意匠・建築設計論に関する研究を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	
	<p>(18 青井 哲人) 対象とする研究分野・テーマ：アジア都市史・住居史研究，植民都市・建築研究，近代建築史研究，近代神社の建築史的・環境史的研究</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，建築史・都市史・領域史（環境史）および建築論に関する研究を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	
	<p>(19 川嶋 雅章) 対象とする研究分野・テーマ：農山村地域や都市近郊地域の地域計画・農村計画に関する研究，土地利用計画・参加型まちづくり・都市農村交流に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き，具体的な地域に着目して地域計画学に関する研究を行う。本科目では，これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに，研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて，研究の特質・独自性，知見の新規性，残された課題などについて評価を行う。また，アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ，研究成果を報告する。</p>	

	<p>(26 門脇 耕三) 対象とする研究分野・テーマ：建築構法および建築構法計画に関する研究</p> <p>建築・都市計画設計研究3に引き続き、建築構法および建築構法計画に関する研究を行う。本科目では、これまでの研究の進捗を踏まえて補足的な文献研究・臨地調査・実験などを進めるとともに、研究成果に関するプレゼンテーションと指導教員とのディスカッションを通じて、研究の特質・独自性、知見の新規性、残された課題などについて評価を行う。また、アカデミック・ライティングの原則に従って研究論文をまとめ、研究成果を報告する。</p>	
建築構造・建築材料研究1	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築構造・建築材料に関する研究を実施する。 既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造・建築材料に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p> <p>(4 荒川 利治) 対象とする研究分野・テーマ：減衰特性が建物の地震応答性状・耐震性能評価に与える影響の解析と実測</p> <p>自重のみならず、地震、強風、津波などの自然災害に対して、建物の安全性を確保し、人命を守ることが建築構造の重要な使命である。建物の構造性能を評価するために、自然現象から生じる外乱の建物への荷重効果を明確にし、建物の振動特性および応答性状を精度良く評価するための既往の研究をサーベイする。本科目では、関連する既往の文献を通じて研究分野の概況を整理して、博士前期課程2年間の研究目的と研究計画を策定する。</p> <p>(5 平石 久廣) 対象とする研究分野・テーマ：鉄筋コンクリート造の新構造技術に関する研究</p> <p>建築耐震構造技術は日進月歩している。構造技術者はこれら新しい技術の情報を収集し理解するとともにその技術を応用する能力が求められる。このような背景のもと耐震に係わる最新技術、特に鉄筋コンクリート造に関する応答制御、損傷軽減、地盤・建物の相互作用、地震防災に関する資料を収集し、関連文献の精読を通じて当該分野の研究概況を学ぶとともに博士前期課程2年間の研究計画を立案する。</p> <p>(6 小山 明男) 対象とする研究分野・テーマ：建築材料の品質と資源循環・環境影響に関する研究</p> <p>建築材料には安全性・耐久性をはじめさまざまな性能が要求され、最近では資源循環や環境影響にも配慮が必要となってきた。このような背景のもと、コンクリートや木材などの構造材料、プラスチック、外装材、タイルなどの仕上げ材料や建築および解体工事などを対象に、安全性、耐久性、環境影響などの評価や新しい建材やシステムの開発に関する研究を行う。本科目では、関連文献の精読を通じて研究分野の概況を学ぶとともに、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p> <p>(7 高木 仁之) 対象とする研究分野・テーマ：RC、PC構造における梁・柱・耐震壁等の構造特性に関する研究</p> <p>異種材料を用いた構造物の代表としては、鉄筋コンクリート構造 (RC) があるが、さらに鉄筋に緊張力を与え長スパン化、軽量化としたプレストレストコンクリート構造 (PC) などが挙げられる。近年ではそれぞれの構造の利点を生かした異種構造を組み合わせた混合構造 (RC+S) (PC+S) の開発が進んでいる。このような混合構造物の難点は異種構造を組み合わせたときの接合にある。接合の善し悪しは施工にも影響し、また耐震安全性の確保にも繋がる。このような背景を基に梁や柱に利用される混合構造物の利点及び異種材料を結ぶための応力伝達機構などに関する研究を行う。本科目では、主に既往研究・関連文献を調査し、研究分野における概況を学んだ上で、博士前期課程2年間の研究計画の立案を行う。</p> <p>(17 小林 正人) 対象とする研究分野・テーマ：建築物の構造解析、構造設計および応答制御構造 (耐震、免震、制振) に関する研究</p> <p>地震、台風、津波などに対して建物の居住性や安全性を確保するためには、これらの外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要である。このような背景のもと、構造力学、振動・制御理論、各種デバイスをを用いた建物の構造性能の向上化、損傷制御およびこれらを保証する設計法に関する研究を行う。本科目では、主に既往研究・関連文献を調査し、研究分野における概況を学んだ上で、博士前期課程2年間の研究計画の立案を行う。</p> <p>(20 梶川 久光) 対象とする研究分野・テーマ：木質建物における水平抵抗機構に関する研究、被災度判定計を用いた建築防災技術の研究</p> <p>自然災害に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。この背景のもとに、木質建築を主な対象として、材料力学、構造力学、振動理論等に基づき、様々な事象に関する研究を行う。本科目では、主に既往研究・関連文献を調査し、研究分野における概況を学んだ上で、博士前期課程2年間の研究計画を行う。</p> <p>(27 熊谷 知彦) 対象とする研究分野・テーマ：シェル・空間構造の構造安全性 (座屈、応答制御、動的崩壊等)</p> <p>地震、台風、積雪等に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。この背景のもとに、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。本科目では、主に既往研究・関連文献を調査し、研究分野における概況を学んだ上で、博士前期課程2年間の研究計画の立案を行う。</p>	
建築構造・建築材料研究2	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築構造・建築材料に関する研究を実施する。 既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造・建築材料に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p> <p>(4 荒川 利治) 対象とする研究分野・テーマ：減衰特性が建物の地震応答性状・耐震性能評価に与える影響の解析と実測</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、地震入力・風外力の外乱を建物への荷重効果として捉え、振動特性および応答性状を対象建物ごとに評価する理論を研究する。構造力学、振動理論を用いた建物の振動特性および応答性状の評価方法を指導する。本科目では、研究対象とする振動モデルごとの解析方法、あるいは振動測定データの評価手法を習得する。また、研究の進捗状況に関する資料を作成して、検討結果のまとめ方を学習する。</p> <p>(5 平石 久廣) 対象とする研究分野・テーマ：鉄筋コンクリート造の新構造技術に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究1にて立案した応答制御、損傷軽減、地盤・建物の相互作用、地震防災などの耐震に係わる最新技術に関する研究を実施する。本科目では具体的な研究計画、実験計画、解析計画を立てその進捗状況を報告する。また各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い指導教員等とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。</p>	

	<p>(6 小山 明男) 対象とする研究分野・テーマ：建築材料の品質と資源循環・環境影響に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、構造材料、仕上げ材料あるいは建築および解体工事などを対象に、安全性、耐久性、環境影響などの評価や新しい建材や資源循環システムの開発に関する研究を行う。本科目では、研究対象とする材料の品質評価に関わる試験や工事現場調査などを行うことにより、本分野における研究手法の習熟を目指す。また、研究の進捗状況をまとめたプレゼンテーション資料を作成し、結果の評価・考察手法を習得する。</p>	
	<p>(7 高木 仁之) 対象とする研究分野・テーマ：RC、PC構造における梁・柱・耐震壁等の構造特性に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、今後研究する具体的な異種材料を組み合わせた混合構造物を取り上げ、その接合方法の設計を行う。設計に当たっては異種構造材間の力学的な応力伝達メカニズムを自ら想定することの重要性から数値解析を行い研究する。本科目では、具体的な実験計画、解析計画を立て、その進捗状況を報告する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。</p>	
	<p>(17 小林 正人) 対象とする研究分野・テーマ：建築物の構造解析、構造設計および応答制御構造（耐震、免震、制振）に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、構造力学、振動・制御理論、各種デバイスを用いた建物の構造性能の向上化、損傷制御およびこれらを保証する設計法に関する研究を行う。本科目では、具体的な実験計画、解析計画を立て、その進捗状況を報告する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。</p>	
	<p>(20 梶川 久光) 対象とする研究分野・テーマ：木質建物における水平抵抗機構に関する研究、被災度判定計を用いた建築防災技術の研究</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、木質建築を主な対象として、材料力学、構造力学、振動理論等に基づき、様々な事象に関する研究を行う。本科目では、具体的な実験計画、解析計画を立て、その進捗状況を報告する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。</p>	
	<p>(27 熊谷 知彦) 対象とする研究分野・テーマ：シェル・空間構造の構造安全性（座屈、応答制御、動的崩壊等）</p> <p>建築構造・建築材料研究1に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。本科目では、具体的な実験計画、解析計画を立て、その進捗状況を報告する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。</p>	
<p>建築構造・建築材料研究3</p>	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築構造・建築材料に関する研究を実施する。 既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造・建築材料に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(4 荒川 利治) 対象とする研究分野・テーマ：減衰特性が建物の地震応答性・耐震性能評価に与える影響の解析と実測</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、振動特性および応答性解析方法を研究して確立する。本科目では、修士1年次の研究成果を集団で討議することで、これまでの研究成果を自己評価するとともに研究目的・研究計画を再構築する。再構築した研究計画に基づき、習得した振動特性の評価方法を用いて、研究対象とする振動モデルの固有振動数、減衰定数、あるいは振動モードなどの評価手法の問題点を整理して、研究テーマを確立する。</p>	
	<p>(5 平石 久廣) 対象とする研究分野・テーマ：鉄筋コンクリート造の新構造技術に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、応答制御、損傷軽減、地盤・建物の相互作用、地震防災などの耐震に係わる最新技術に関する研究を実施する。本科目では、建築構造・建築材料研究1・2での研究成果を自己評価し、研究計画の再構築を行う。さらに、理論解析、構造実験、数値解析等を実行しその分析を行う。また、理論、実験、解析結果を評価・考察することで現状の問題点を把握し、問題解決手法について検討する。</p>	
	<p>(6 小山 明男) 対象とする研究分野・テーマ：建築材料の品質と資源循環・環境影響に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、建築材料の品質評価や開発あるいは資源循環システムの開発に関する研究を実施する。本科目では、前年度までの研究成果と既往文献調査によって自らの研究の位置づけなどを自己評価し、研究計画の再構築を行う。再構築した研究計画に基づき、習熟した研究手法を用いて、研究対象に関する実験・調査を行う。また、研究結果を評価・考察して問題点を把握し、問題解決手法について検討を行って新たな知見を得ることを目指す。</p>	
	<p>(7 高木 仁之) 対象とする研究分野・テーマ：RC、PC構造における梁・柱・耐震壁等の構造特性に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、研究する具体的な異種材料を組み合わせた混合構造物の接合の詳細図を作成し、その施工方法などの手順を考え実験試験体の設計を行う。また実験試験体の加力方法および測定方法の設計も同時に行う。本科目では、建築構造・建築材料研究1・2での研究成果を自己評価し、研究計画の構築を行う。さらに、実験試験体の設計及び加力、測定計画を行い、データの取得方法とその分析方法を評価・考察することで、現状の問題点を把握し、問題解決手法について検討する。</p>	

	<p>(17 小林 正人) 対象とする研究分野・テーマ：建築物の構造解析、構造設計および応答制御構造（耐震、免震、制振）に関する研究。</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、構造力学、振動・制御理論、各種デバイスをを用いた建物の構造性能の向上化、損傷制御およびこれらを保証する設計法に関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究1・2での研究成果を自己評価し、研究計画の再構築を行う。さらに、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、実験・解析結果を評価・考察することで、現状の問題点を把握し、問題解決手法について検討する。</p>	
	<p>(20 梶川 久光) 対象とする研究分野・テーマ：木質建物における水平抵抗機構に関する研究、被災度判定計を用いた建築防災技術の研究</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、木質建築を主な対象として、材料力学、構造力学、振動理論等に基づき、様々な事象に関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究1・2での研究成果を自己評価し、必要であれば、研究計画の再構築を行う。さらに、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、実験・解析結果を評価・考察することで、現状の問題点を把握し、問題解決手法について検討する。</p>	
	<p>(27 熊谷 知彦) 対象とする研究分野・テーマ：シェル・空間構造の構造安全性（座屈、応答制御、動的崩壊等）</p> <p>建築構造・建築材料研究2に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究1・2での研究成果を自己評価し、研究計画の再構築を行う。さらに、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、実験・解析結果を評価・考察することで、現状の問題点を把握し、問題解決手法について検討する。</p>	
<p>建築構造・建築材料研究4</p>	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築構造・建築材料に関する研究を実施する。 既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造・建築材料に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(4 荒川 利治) 対象とする研究分野・テーマ：減衰特性が建物の地震応答性状・耐震性能評価に与える影響の解析と実測</p> <p>建築構造・建築材料研究3において確立した研究テーマに従って研究を系統的にまとめるために、建築構造の振動特性の評価方法を体系的に説明できる理論を構築する。本科目では、これまでの成果を関連学会で研究論文として発表することで、研究成果を集約する能力を習得する。また、最終段階では、これまでの研究の成果および課題を明確化し、新規性あるいは工学的な価値を提示して、研究論文として総括する。</p>	
	<p>(5 平石 久廣) 対象とする研究分野・テーマ：鉄筋コンクリート造の新構造技術に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、応答制御、損傷軽減、地盤・建物の相互作用、地震防災などの耐震に係わる最新技術に関する研究を実施する。本科目では、建築構造・建築材料研究3で検討した問題解決手法を適用することで、最終成果に向けた理論解析、構造実験、数値解析等を実行しその分析を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、研究を総括して成果報告を行う。</p>	
	<p>(6 小山 明男) 対象とする研究分野・テーマ：建築材料の品質と資源循環・環境影響に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、建築材料の品質評価や建築材料の開発あるいは資源循環システムの開発に関する研究を実施する。本科目では、引き続き研究対象について調査・実験を行うとともに、これまでの成果を統合・評価し、関連学会への投稿を念頭においた研究論文等を作成し、研究成果の総括能力を習得する。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、これまでの研究を総括した成果報告を行う。</p>	
	<p>(7 高木 仁之) 対象とする研究分野・テーマ：RC、PC構造における梁・柱・耐震壁等の構造特性に関する研究</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、実験する混合構造物を製作する。製作に当たっては施工手順の問題点を検討し、より良い施工法の確立を目指す。また実験により得られた成果が自ら想定した応力伝達メカニズムとの相違がどのように生じたかを分析する。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、研究を総括して成果報告を行う。</p>	
	<p>(17 小林 正人) 対象とする研究分野・テーマ：建築物の構造解析、構造設計および応答制御構造（耐震、免震、制振）に関する研究。</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、構造力学、振動・制御理論、各種デバイスをを用いた建物の構造性能の向上化、損傷制御およびこれらを保証する設計法に関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究3で検討した問題解決手法を適用することで、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、研究を総括して成果報告を行う。</p>	
	<p>(20 梶川 久光) 対象とする研究分野・テーマ：木質建物における水平抵抗機構に関する研究、被災度判定計を用いた建築防災技術の研究</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、木質建築を主な対象として、材料力学、構造力学、振動理論等に基づき、様々な事象に関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究3で検討した問題解決手法を適用することで、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、研究を総括して成果報告を行う。</p>	
	<p>(27 熊谷 知彦) 対象とする研究分野・テーマ：シェル・空間構造の構造安全性（座屈、応答制御、動的崩壊等）</p> <p>建築構造・建築材料研究3に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。本科目では、建築構造・建築材料研究3で検討した問題解決手法を適用することで、構造実験、数値解析等を実行し、データの取得とその分析を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果の問題点、新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い、研究を総括して成果報告を行う。</p>	

建築環境・建築設備研究 1	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築環境・建築設備に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築環境・建築設備に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(8 坂上 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：水環境、建築設備、給排水設備についての研究</p> <p>建築水環境・給排水設備分野においては、水有効利用にかかわる雨水利用、排水再利用、節水等、省エネにかかわる節湯・節水、機器・システムの効率向上等が課題となっている。それらに関連して、節水・節湯のモデル化とCO2排出量予測法、使用水量・消費電力量の高精度予測法、水封式・非水封式トラップの性能評価法、トラップ封水・排水内排水流れのCFD解析法、サイホン排水システムの開発と評価法に関する研究を行う。本科目では、関連文献の精読を通じて研究分野の概況を学ぶとともに、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p>	
	<p>(9 酒井 孝司) 対象とする研究分野・テーマ：温熱・空気環境解析、自然エネルギー利用、蓄熱利用空調</p> <p>地球環境問題の顕在化に伴い、熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。これらを背景に、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。本科目では、関連文献の精読を通じて研究分野の概況を学ぶとともに、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p>	
	<p>(21 植山 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：建物内外気流のCFD適用と測定実験、空調システムの性能評価、緑化の実測と解析</p> <p>室内における快適環境の維持は建築環境・設備設計の根幹である一方で、地球温暖化の緩和策として、建築の運用に伴う環境負荷の削減が社会的に重要な課題となる。以上を踏まえて、建築の運用、中でも特に空調設備の運用に伴う環境負荷の低減を目指し、自然エネルギー利用の可能性の検証や室内の温熱・空気環境の省エネ制御手法の確立に関する研究を行う。本科目では、既往研究の調査を通して、関連研究分野の動向と課題を精査し、博士前期課程2年間の研究目標を立てる。</p>	
	<p>(22 上野 佳奈子) 対象とする研究分野・テーマ：室内音環境の評価・設計法に関する研究</p> <p>建築・都市の音環境の評価・設計手法に関わる研究課題について、フィールド調査、実験室実験等を通じて研究を行う。主として建築音響学、環境心理学の研究手法を適用し、人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること、環境の認知について理解を深めることを目指す。本科目では、関連文献の精読を通じて研究分野の概況を学ぶとともに、測定・分析手法の習得を行う。また、博士前期課程2年間の研究テーマを設定し、研究計画を策定する。</p>	
建築環境・建築設備研究 2	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築環境・建築設備に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築環境・建築設備に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(8 坂上 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：水環境、建築設備、給排水設備についての研究</p> <p>建築環境・建築設備研究1に引き続き、各研究にかかわるアンケート調査、実験（実験タワーを用いた実験、室内実験）、予測法、評価法、CFD解析法等を検討する。本科目では、研究対象ごとに、既往調査・実験、予測・評価・解析の再現や追試を行い、それらを習熟する。また、研究の進捗状況をまとめたプレゼンテーション資料を作成し、結果の評価・考察手法を習得する。</p>	
	<p>(9 酒井 孝司) 対象とする研究分野・テーマ：温熱・空気環境解析、自然エネルギー利用、蓄熱利用空調</p> <p>建築環境・建築設備研究1に引き続き、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を実施する。本科目では、研究対象とする温熱環境の予備実測または数値解析を行うことにより、温熱環境評価手法や解析手法等の研究手法の習熟を目指す。また、研究の進捗状況をまとめたプレゼンテーション資料を作成し、結果の評価・考察手法を習得する。</p>	
	<p>(21 植山 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：建物内外気流のCFD適用と測定実験、空調システムの性能評価、緑化の実測と解析</p> <p>建築環境・建築設備研究1に引き続き、空調設備の運用に伴う環境負荷の低減を目指し、自然エネルギー利用の可能性の検証や室内の温熱・空気環境の省エネ制御手法の確立に関する研究を実施する。本科目では、研究目標に到達するために必要となる研究ツール（3次元CAD、エネルギーシミュレーション、空調シミュレーション）の技術習得を行い、設定した課題の解決に向けた具体的な研究計画を策定する。</p>	
	<p>(22 上野 佳奈子) 対象とする研究分野・テーマ：室内音環境の評価・設計法に関する研究</p> <p>建築環境・建築設備研究1に引き続き、建築・都市の音環境の評価・設計手法に関わる研究を行う。本科目では、予備実験・予備調査を実施することにより、調査・実験手法の妥当性を検討するとともに、測定・分析手法について習熟度を高める。また、研究の進捗状況をまとめたプレゼンテーション資料を作成し、結果の評価・考察手法を習得する。専門家に向けた研究発表の機会も積極的に活用し、研究手法の妥当性や成果の有効性について検討し、研究計画にフィードバックする。</p>	
建築環境・建築設備研究 3	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで、建築環境・建築設備に関する研究を実施する。既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築環境・建築設備に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	

	<p>(8 坂上 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：水環境，建築設備，給排水設備についての研究</p> <p>建築環境・建築設備研究2に引き続き，各研究を遂行する。本科目では，修士1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また，再構築した研究計画に基づき，習熟した調査・実験法，予測・評価・解析法等を用いて，研究対象ごとに調査・実験，予測・評価・解析を行う。また，研究結果を評価・考察して問題点を把握し，問題解決手法について検討を行う。</p>	
	<p>(9 酒井 孝司) 対象とする研究分野・テーマ：温熱・空気環境解析，自然エネルギー利用，蓄熱利用空調</p> <p>建築環境・建築設備研究2に引き続き，温熱環境評価・数値予測法の確立に関する研究を実施する。本科目では，修士1年次の研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。また，再構築した研究計画に基づき，習熟した温熱環境評価手法や解析手法等を用いて，研究対象とする温熱環境の本実測または数値解析を行う。また，研究結果を評価・考察して問題点を把握し，問題解決手法について検討を行い，新たな予測評価手法の確立を目指す。</p>	
	<p>(21 樋山 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：建物内外気流のCFD適用と測定実験，空調システムの性能評価，緑化の実測と解析</p> <p>建築環境・建築設備研究2に引き続き，自然エネルギーの利用可能性の検証や，空調調和設備の省エネ運用手法の確立に関する研究を実施する。本科目では，博士前期課程1年次に設定した研究計画の下，習得した技術の実践的な活用を通じた課題解決に向けた取組を進める。また，ここで得られた結果の議論を通して，掲げた研究目標を達成するために必要な研究計画の見直しを実施し，最終成果物の具体的なイメージを描く。</p>	
	<p>(22 上野 佳奈子) 対象とする研究分野・テーマ：室内音環境の評価・設計法に関する研究</p> <p>建築環境・建築設備研究2に引き続き，建築・都市の音環境の評価・設計手法に関する研究を行う。本科目では，一年次に行った研究成果を自己評価し，研究計画の再構築を行う。再構築した研究計画に基づき，習熟した環境心理評価手法や建築音響測定手法等を用いて，研究対象とする音環境に関わる調査・実験を行う。また，研究結果を評価・考察して問題点を把握し，問題解決手法について検討を行い，研究成果について具体的な見直しをたてる。</p>	
建築環境・建築設備研究4	<p>(概要) 指導教員による研究指導のもとで，建築環境・建築設備に関する研究を実施する。 既往研究・関連文献の調査，研究計画の立案，研究の進捗状況の報告を通じて，建築環境・建築設備に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を身につける。また，研究内容に関するプレゼンテーション，指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につける。</p>	
	<p>(8 坂上 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：水環境，建築設備，給排水設備についての研究</p> <p>建築環境・建築設備研究3に引き続き，各研究を遂行する。本科目では，研究対象ごとに調査・実験，予測・評価・解析を継続するとともに，これまでの成果を統合・評価し，関連学会への投稿を念頭においた研究論文を作成し，研究成果の総括能力を習得する。また，本科目の最終段階では，研究成果の問題点，新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い，これまでの研究を総括し，最終には成果報告を行う。</p>	
	<p>(9 酒井 孝司) 対象とする研究分野・テーマ：温熱・空気環境解析，自然エネルギー利用，蓄熱利用空調</p> <p>建築環境・建築設備研究3に引き続き，温熱環境評価・数値予測法の確立に関する研究を実施する。本科目では，引き続き研究対象とする温熱環境の本実測または数値解析を行うとともに，これまでの成果を統合・評価し，関連学会への投稿を念頭においた研究論文等を作成し，研究成果の総括能力を習得する。また，本科目の最終段階では，研究成果の問題点，新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い，これまでの研究を総括する。</p>	
	<p>(21 樋山 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：建物内外気流のCFD適用と測定実験，空調システムの性能評価，緑化の実測と解析</p> <p>建築環境・建築設備研究3に引き続き，自然エネルギーの利用可能性の検証や，空調調和設備の省エネ運用手法の確立に関する研究を実施する。本科目では，見直しをした研究計画の下，課題解決に向けた取組を完結させる。ここまでのプロセスで得られた結果は，外部からの評価を受けると共に，関連研究分野の発展に寄与する知見の集積を目的として，研究論文や関連学会の学術講演会において対外発表を行う。</p>	
	<p>(22 上野 佳奈子) 対象とする研究分野・テーマ：室内音環境の評価・設計法に関する研究</p> <p>建築環境・建築設備研究3に引き続き，建築・都市の音環境の評価・設計手法に関する研究を行う。本科目では，引き続き研究対象とする音環境の調査・実験を行うとともに，これまでの成果を統合・評価し，関連学会への投稿を念頭においた研究論文等を作成し，研究成果の総括能力を研鑽する。また，本科目の最終段階では，研究成果の問題点，新規性や工学寄与性等の研究達成度について自己評価を行い，これまでの研究を総括する。また，成果報告を行う。</p>	
Architecture and Urban Design Studies 1	<p>(概要) Based on the knowledge acquired through researches and studies that students worked on through Architecture and Urban Design Studies 1, 2 &amp; 3, students will work on their thesis design projects through Architecture and Urban Design Studies 4. For their thesis design projects, students will develop specific architectural and/or urban design, produce presentation boards, and present their projects in the final review session. (和訳) 学生は建築都市デザイン研究1、2&amp;3の調査・研究を通じて得られた知見をもとに，建築都市デザイン研究4で学位請求論文を作成します。論文作成課程で，学生は特定の建築・都市デザインに関する知見を向上させ，ポスター発表を準備し，最終審査会で発表する。</p>	
	<p>(10 小林 正美) 対象とする研究分野・テーマ：GISによる都市構造の解析，アーバンインターベンション論，視覚的シークエンスに関する研究，「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実態と評価に関する研究</p> <p>急速な人口減少社会や国際化の進行，環境問題の顕在化により，これまでの都市や建築のあり方は大きな転換を迫られている。このような時代において，国際的視点に立ち，建築や都市を取り巻く様々な問題の把握と分析，現在の取組，およびこれからの建築と都市空間のあり方に関する研究を行う。本科目では，関連文献の調査・事例の研究を通して，研究分野の概況を理解するとともに，研究対象の絞り込みを行う。本科目は，本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	

	<p>(11 タルディッツ, マニュアル) 対象とする研究分野・テーマ：建築の構成, 都市の構成, 都市景観</p> <p>急速な人口減少社会や国際化の進行、環境問題の顕在化により、これまでの都市や建築のあり方は大きな転換を迫られている。このような時代において、国際的視点に立ち、建築や都市を取り巻く様々な問題の把握と分析、現在の取組、およびこれからの建築と都市空間のあり方に関する研究を行う。本科目では、関連文献の調査・事例の研究を通して、研究分野の概況を理解するとともに、研究対象の絞り込みを行う。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
	<p>(12 吉村 靖孝) 対象とする研究分野・テーマ：建築設計, 建築意匠, 建築設計方法論</p> <p>急速な人口減少社会や国際化の進行、環境問題の顕在化により、これまでの都市や建築のあり方は大きな転換を迫られている。このような時代において、国際的視点に立ち、建築や都市を取り巻く様々な問題の把握と分析、現在の取組、およびこれからの建築と都市空間のあり方に関する研究を行う。本科目では、関連文献の調査・事例の研究を通して、研究分野の概況を理解するとともに、研究対象の絞り込みを行う。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
	<p>(23 佐々木 宏幸) 対象とする研究分野・テーマ：戦略的アーバンデザイン・都市計画の実践手法, 現代アーバンイズム理論, 公共交通指向TOD型開発の研究</p> <p>急速な人口減少社会や国際化の進行、環境問題の顕在化により、これまでの都市や建築のあり方は大きな転換を迫られている。このような時代において、国際的視点に立ち、建築や都市を取り巻く様々な問題の把握と分析、現在の取組、およびこれからの建築と都市空間のあり方に関する研究を行う。本科目では、関連文献の調査・事例の研究を通して、研究分野の概況を理解するとともに、研究対象の絞り込みを行う。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
Architecture and Urban Design Studies 2	<p>(概要) Based on the knowledge acquired through researches and studies that students worked on through Architecture and Urban Design Studies 1, 2 &amp; 3, students will work on their thesis design projects through Architecture and Urban Design Studies 4. For their thesis design projects, students will develop specific architectural and/or urban design, produce presentation boards, and present their projects in the final review session. (和訳) 学生は建築都市デザイン研究1、2&amp;3の調査・研究を通じて得られた知見をもとに、建築都市デザイン研究4で学位請求論文を作成します。論文作成課程で、学生は特定の建築・都市デザインに関する知見を向上させ、ポスター発表を準備し、最終審査会で発表する。</p>	
	<p>(10 小林 正美) 対象とする研究分野・テーマ：GISによる都市構造の解析, アーバンインターベンション論, 視覚的シークエンスに関する研究, 「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実態と評価に関する研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 1に引き続き、関連文献の調査・事例の研究を行うとともに、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築都市デザインに関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力の修得を目指す。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
	<p>(11 タルディッツ, マニュアル) 対象とする研究分野・テーマ：建築の構成, 都市の構成, 都市景観</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 1に引き続き、関連文献の調査・事例の研究を行うとともに、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築都市デザインに関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力の修得を目指す。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
	<p>(12 吉村 靖孝) 対象とする研究分野・テーマ：建築設計, 建築意匠, 建築設計方法論</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 1に引き続き、関連文献の調査・事例の研究を行うとともに、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築都市デザインに関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力の修得を目指す。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
	<p>(23 佐々木 宏幸) 対象とする研究分野・テーマ：戦略的アーバンデザイン・都市計画の実践手法, 現代アーバンイズム理論, 公共交通指向TOD型開発の研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 1に引き続き、関連文献の調査・事例の研究を行うとともに、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築都市デザインに関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、研究内容に関するプレゼンテーション、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力の修得を目指す。本科目は、本科目を担当する全教員と集団で指導する。</p>	
Architecture and Urban Design Studies 3	<p>(概要) Based on the knowledge acquired through researches and studies that students worked on through Architecture and Urban Design Studies 1, 2 &amp; 3, students will work on their thesis design projects through Architecture and Urban Design Studies 4. For their thesis design projects, students will develop specific architectural and/or urban design, produce presentation boards, and present their projects in the final review session. (和訳) 学生は建築都市デザイン研究1、2&amp;3の調査・研究を通じて得られた知見をもとに、建築都市デザイン研究4で学位請求論文を作成します。論文作成課程で、学生は特定の建築・都市デザインに関する知見を向上させ、ポスター発表を準備し、最終審査会で発表する。</p>	
	<p>(10 小林 正美) 対象とする研究分野・テーマ：GISによる都市構造の解析, アーバンインターベンション論, 視覚的シークエンスに関する研究, 「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実態と評価に関する研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 2に引き続き、都市および建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2の研究をもとに、近隣周辺地区とコンテクストに呼応した建築デザインに関する研究テーマを設定し、研究計画を策定する。特に海外における都市と建築の動向に焦点を当てたテーマの設定を奨励し、調査・研究を行い、その結果をまとめるとともに、そこで得られた知見を検証するデザイン対象プロジェクトの選定を行う。</p>	
	<p>(11 タルディッツ, マニュアル) 対象とする研究分野・テーマ：建築の構成, 都市の構成, 都市景観</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 2に引き続き、都市デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2の研究をもとに、都市計画原理およびその周辺領域における研究テーマを設定し、研究計画を策定する。特に海外都市の設計手法に焦点を当てたテーマの設定を奨励し、調査・研究を行い、その結果をまとめるとともに、そこで得られた知見を検証するデザイン対象プロジェクトの選定を行う。</p>	

	<p>(12 吉村 靖孝) 対象とする研究分野・テーマ：建築設計，建築意匠，建築設計方法論</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 2に引き続き、建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2の研究をもとに、建築デザインおよびその周辺領域における研究テーマを設定し、研究計画を策定する。特に設計手法や設計理論に焦点を当てたテーマの設定を奨励し、調査・研究を行い、その結果をまとめるとともに、そこで得られた知見を検証するデザイン対象地区の選定を行う。</p>	
	<p>(23 佐々木 宏幸) 対象とする研究分野・テーマ：戦略的アーバンデザイン・都市計画の実践手法，現代アーバンイズム理論，公共交通指向TOD型開発の研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 2に引き続き、建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2の研究をもとに、建築デザインおよびその周辺領域における研究テーマを設定し、研究計画を策定する。特に設計手法や設計理論に焦点を当てたテーマの設定を奨励し、調査・研究を行い、その結果をまとめるとともに、そこで得られた知見を検証するデザイン対象地区の選定を行う。</p>	
Architecture and Urban Design Studies 4	<p>(概要) Based on the knowledge acquired through researches and studies that students worked on through Architecture and Urban Design Studies 1, 2 &amp; 3, students will work on their thesis design projects through Architecture and Urban Design Studies 4. For their thesis design projects, students will develop specific architectural and/or urban design, produce presentation boards, and present their projects in the final review session. (和訳) 学生は建築都市デザイン研究1, 2&amp;3の調査・研究を通じて得られた知見をもとに、建築都市デザイン研究4で学位請求論文を作成します。論文作成課程で、学生は特定の建築・都市デザインに関する知見を向上させ、ポスター発表を準備し、最終審査会で発表する。</p>	
	<p>(10 小林 正美) 対象とする研究分野・テーマ：GISによる都市構造の解析，アーバンインターベンション論，視覚的シークエンスに関する研究，「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実態と評価に関する研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 3に引き続き、都市および建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2,3の成果をもとに、選定したデザイン対象地区に関して、都市の問題を解決し、その可能性を最大化する建築空間デザインの提案を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果やデザイン提案の問題点や意義について自己評価を行い、これまでの研究を総括する。</p>	
	<p>(11 タルディッツ， マヌエル) 対象とする研究分野・テーマ：建築の構成，都市の構成，都市景観</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 3に引き続き、都市および建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2,3の成果をもとに、選定したデザイン対象地区に関して、都市の問題を解決し、その可能性を最大化する建築空間デザインの提案を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果やデザイン提案の問題点や意義について自己評価を行い、これまでの研究を総括する。</p>	
	<p>(12 吉村 靖孝) 対象とする研究分野・テーマ：建築設計，建築意匠，建築設計方法論</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 3に引き続き、都市および建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2,3の成果をもとに、選定したデザイン対象地区に関して、都市の問題を解決し、その可能性を最大化する建築空間デザインの提案を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果やデザイン提案の問題点や意義について自己評価を行い、これまでの研究を総括する。</p>	
	<p>(23 佐々木 宏幸) 対象とする研究分野・テーマ：戦略的アーバンデザイン・都市計画の実践手法，現代アーバンイズム理論，公共交通指向TOD型開発の研究</p> <p>Architecture and Urban Design Studies 3に引き続き、都市および建築デザインに関する研究を実施する。本科目では、Architecture and Urban Design Studies 1,2,3の成果をもとに、選定したデザイン対象地区に関して、都市の問題を解決し、その可能性を最大化する建築空間デザインの提案を行う。また、本科目の最終段階では、研究成果やデザイン提案の問題点や意義について自己評価を行い、これまでの研究を総括する。</p>	
総合芸術研究 1	<p>(概要) 総合芸術系の必修科目では、各自の関心に応じて、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの特定分野、及びそれら相互の領域横断分野における研究対象について、高度な先端知識と表現能力を体得する。</p>	
	<p>(13 倉石 信乃) 対象とする研究分野・テーマ：複製技術時代以降の視覚芸術の可能性を、具体的な作品/資料に拠って考察する</p> <p>本科目では、美術、写真、映画など主に視覚芸術の各分野を貫く通用性を持ち、今日の芸術を理解するための基礎となるべき作品・資料・文献を精選し、読解を行なう。その際、今日の芸術が、独立した閉域に存立するのではなく、自然や社会とより密接な関係を結ぶものとして不可避に再編されていることに留意する。また、各自が研究論文の作成はもとより、修士研究の一環として作品制作を手がける場合にも、クラスにおいて構想力と表現力を高めるための発表および討議を行なう。</p>	
	<p>(14 菅 啓次郎) 対象とする研究分野・テーマ：現代地球社会における文化創造の分析</p> <p>具体的な場所とその表象の体験をつうじて人の意識を直接に変える操作の全体を「芸術」と広く定義し、社会運営の不可欠の一部としての芸術を人類史の中で概観しつつ、現代における創造に実践に関わるための手がかりを探ることをめざす。特にその基礎訓練としての批評文の執筆を重視し、修士研究の土台を構築するための作業を毎週のゼミにより積み重ねてゆく。</p>	
	<p>(15 清岡 智比古) 対象とする研究分野・テーマ：東京やパリを中心とする都市論、フランスの移民映画を中心とする映画論、あるいはそれらが接合する局面について、表象文化論的な視点から取り組んでいる。</p> <p>人の移動を本質とするグローバル化した世界において、世界の理解の鍵を握るのは移民たちである。そして彼らが最終的にたどり着くのは国家ではなくポスト・コロニアルな都市なのであり、そこで移民論は都市論と交差する。この地点の多文化的・多民族的有りようを具体的に明らかにすべく、本科目では、多様な映像作品、あるいは文芸作品、アート作品などの分析・研究を行う。なお本科目では、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p>	

		<p>(24 波戸岡 景太) 対象とする研究分野・テーマ：トマス・ピンチョンを中心とした現代アメリカ文学・文化研究を専門とする。また、日米比較文化論的な観点から、ジャンル横断的なコンテンツ批評にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>前世紀の芸術および文芸は、マスメディアの爆発的な発展とともにあり、今世紀においてそれらは、情報通信技術の革新と浸透によって質的にも量的にも大きな変容を迫られている。このような、個と共同体の関係から生み出される芸術というものの本質を明らかにするべく、本科目ではメディアやジャンルに捉われない、多角的かつ総合的な芸術と文芸の研究を行う。なお、本科目では、批評論的な視野の獲得を目指すとともに、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p>	
		<p>(25 鞍田 崇) 対象とする研究分野・テーマ：地球規模の環境・社会変化に伴う諸問題を克服する人文的アプローチ（環境人文学）の確立</p> <p>総合芸術研究1・2は「環境人文学」の基礎を培うのがねらいである。地球環境問題の解決に向けた社会変革をうながす要として、人文的視点の必要性が唱えられて久しい。ここでは、まず、その社会的背景について、過去半世紀の環境研究の進展とともに理解を深めることを目指す。また、今日求められる「人文性」を問う基盤として、芸術・工芸、建築・デザインなど関連ジャンルの動向を明らかにし、あわせて、博士前期課程2年間の研究計画を策定する。</p>	
	総合芸術研究2	<p>(概要) 総合芸術系の必修科目では、各自の関心に応じて、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの特定分野、及びそれら相互の領域横断な分野における研究対象について、高度な先端的知識と表現能力を体得する。</p>	
		<p>(13 倉石 信乃) 対象とする研究分野・テーマ：複製技術時代以降の視覚芸術の可能性を、具体的な作品/資料に拠って考察する</p> <p>総合芸術研究1を踏まえ、各分野における重要な作品・資料・文献について継続して読解を進めるとともに、特に今日の芸術を考察する上でよりアクチュアルな問題意識を醸成するためのトピックについても認識を深める。各自の研究については、12月に予定されている研究論文中間発表会を目的に、修士研究の概要を整備するため、このクラスにおいて発表と討議を反復する。また各自の計画に基づいて、研究のための資料調査、フィールドワークを実施する。</p>	
		<p>(14 管 啓次郎) 対象とする研究分野・テーマ：現代地球社会における文化創造の分析</p> <p>総合芸術研究1にひきつづき、現代における創造をジャンル横断的に捉えつつ、文化人類学・社会哲学との連結に立って制作と批評を進める。その際、エコクリティカルな視点と現実の場所のフィールドワークを強調する。修士課程1年次の中心的な行事である12月の研究論文中間発表会にむけて、各自の主題を確立し、付随したリーディングリストを完成させる。</p>	
		<p>(15 清岡 智比古) 対象とする研究分野・テーマ：東京やパリを中心とする都市論、フランスの移民映画を中心とする映画論、あるいはそれらが接合する局面について、表象文化論的な視点から取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究1に引き続き、生きられた空間、ないし多文化的トポスとしての都市の読解を、世界のさまざまな地域の映像表現や文芸作品を通して深めてゆく。同時に、研究書の精読を通して、論文制作技術の獲得にも努める。各自の研究については、12月に予定されている研究論文中間発表会を視野に、修士研究のテーマを絞り込んでゆく。その際、本科目において随時プレゼンテーションを行い、それに伴う討議を有効にフィードバックさせてゆくこととする。</p>	
		<p>(24 波戸岡 景太) 対象とする研究分野・テーマ：トマス・ピンチョンを中心とした現代アメリカ文学・文化研究を専門とする。また、日米比較文化論的な観点から、ジャンル横断的なコンテンツ批評にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究1に引き続き、メディア横断的かつジャンル複合的な芸術研究を実施する。研究書、理論書、批評書を精読することで、アダプテーション理論といったものへの理解を深めるとともに、作品分析の方法としてこれらの理論を応用できる論文執筆力を養う。また、エコクリティシズムの学習を通じて、地球環境論的な視野の獲得も目指す。なお、本科目では、研究内容を口頭で発表するプレゼンテーション能力の開発にも力を注ぎ、資料整理と分析手法の簡明化の方法を学ぶ。</p>	
		<p>(25 鞍田 崇) 対象とする研究分野・テーマ：地球規模の環境・社会変化に伴う諸問題を克服する人文的アプローチ（環境人文学）の確立</p> <p>総合芸術研究1を受けて、ひきつづき環境人文学が要請される社会背景の検討を進め、近年の社会運動の動向、人口動態などの社会構造や、社会意識の変化について精査する。あわせて、人文性の実を思想的に掘り下げることを試みる。ここでは、既存の人文性を「環境」という文脈から再定義するのではなく、むしろ、これからの社会と暮らしのあり方を設計するための思索力を獲得し、環境問題をはじめとする社会問題への取り組みから、新しい人文学を創出する担い手を育成することが目的となる。</p>	
	総合芸術研究3	<p>(概要) 総合芸術系の必修科目では、各自の関心に応じて、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの特定分野、及びそれら相互の領域横断な分野における研究対象について、高度な先端的知識と表現能力を体得する。</p>	
		<p>(13 倉石 信乃) 対象とする研究分野・テーマ：複製技術時代以降の視覚芸術の可能性を、具体的な作品/資料に拠って考察する</p> <p>総合芸術研究1・2で行ってきた資料読解や、芸術を取り巻く課題への考察を受けて、各自の研究分野の歴史的展開と現在の状況に対する見取り図を描出し、修士研究に必要となる背景や文脈の獲得に努める。修士研究においては、それぞれのテーマに関わる先行研究を遺漏なく批判的に分析して、芸術研究の更新に資するための諸条件を見定めながら、論文や作品制作へとつなげていく。また、資料調査とフィールドワークを継続する。</p>	
		<p>(14 管 啓次郎) 対象とする研究分野・テーマ：現代地球社会における文化創造の分析</p> <p>修士研究完成を視野に入れて、毎週のゼミでも論文草稿の発表をくりかえし、着実に進行する。その際、特に英語文献の精読を重視し、最終的アウトプットが論文であれ作品であれ、コンセプチュアル・ライティングとしてきちんと構想されたものを仕上げるができるよう配慮する。ゲストとしてゼミを訪問するさまざまな分野の第一線のアーティストたちとの議論により、概念の地平をひろげる。</p>	

		<p>(15 清岡 智比古) 対象とする研究分野・テーマ：東京やパリを中心とする都市論、フランスの移民映画を中心とする映画論、あるいはそれらが接合する局面について、表象文化論的な視点から取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究2までの成果を踏まえ、映像や文芸作品、及び他ジャンルの素材を用いた多文化的都市を研究する。また本科目では同時に、各自のテーマに合わせた文献精読、及びその理論の応用の可能性についての討議が行われる。また、都市論、移民論はもとより、社会学的、宗教学的、共同体論的等、多様な視点から論じる訓練を行う。修士研究においては、それぞれのテーマに関わる先行研究網羅的に分析し、芸術研究の発展に寄与できる論文執筆を目指す。</p>	
		<p>(24 波戸岡 景太) 対象とする研究分野・テーマ：トマス・ピンチョンを中心とした現代アメリカ文学・文化研究を専門とする。また、日米比較文化論的な観点から、ジャンル横断的なコンテンツ批評にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究2までの成果を踏まえ、メディア横断的かつジャンル複合的な芸術研究を行う。本科目では、統一的な理論の習得に加えて、個々の学生の研究対象によりそうかたちでの文献渉猟と、その精読が行われる。ことに、分析対象作品との関連作品の分析や、読者反応論的な観点から見ると、それらの需要・供給システムの解析が、本科目での重要な研究内容となる。博士前期課程の1年目で得られた研究成果を見直し、これを研究論文に仕上げていくための研究計画を再構築する。</p>	
		<p>(25 鞍田 崇) 対象とする研究分野・テーマ：地球規模の環境・社会変化に伴う諸問題を克服する人文的アプローチ（環境人文学）の確立</p> <p>総合芸術研究1・2と同様に「環境人文学」とは何かが主たるテーマになるが、それらがどちらかといえば、理論面に重きを置いたのに対し、3・4では、実践性・表現力を培うことに比重を置く。そうした点から、まずは、デザインの社会的役割について検討を進める。ここでいうデザインは、特別な専門技能としてのそれではない。言語と並んで人間の本質をなすものであり、知識よりも体験を重視し、五感によって感受される仕方でも表現する能力を培うことを目指す。</p>	
	総合芸術研究4	<p>(概要) 総合芸術系の必修科目では、各自の関心に応じて、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの特定分野、及びそれら相互の領域横断分野における研究対象について、高度な先端知識と表現能力を体得する。</p>	
		<p>(13 倉石 信乃) 対象とする研究分野・テーマ：複製技術時代以降の視覚芸術の可能性を、具体的な作品/資料に拠って考察する</p> <p>総合芸術研究3までの成果を踏まえ、特定の分野・対象についての十分な認識と、近接する分野や人文諸学の今日的な研究水準の理解とを統合し、最終的に修士研究にまとめる。研究論文については、論文の内容のみならず、構成から具体的な表記にいたる「形式」についての配慮ある執筆を心がける。修士研究の一環として作品制作を行う場合には、修了制作展などを開催し、その成果について広く学内外からの評価を得るものとする。</p>	
		<p>(14 管 啓次郎) 対象とする研究分野・テーマ：現代地球社会における文化創造の分析</p> <p>総合芸術研究3までで得た知識と認識に基づき、修士研究を完成させる。また研究成果が有機的な連関をもって今後とも成長してゆくよう、社会的・歴史的な文脈の創出を心がける。研究については形式を整え、議論と論証において必要な資料を精査し、明快で説得力のある論述をめざす。さらに発信言語としての英語を重視し、日本語で論文を提出する場合にも、正しい英語で要約を付すことを推奨する。</p>	
		<p>(15 清岡 智比古) 対象とする研究分野・テーマ：東京やパリを中心とする都市論、フランスの移民映画を中心とする映画論、あるいはそれらが接合する局面について、表象文化論的な視点から取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究3までの成果を踏まえ、変容し続ける現代世界及び未来についての理解の深まりに資する研究論文の執筆を目指す。研究対象作品（群）あるいは作家が、現代の芸術状況において占める位置、あるいは近接した作品との異同に注意を払いながら、新たな視点を提示し、かつ、アカデミックに認められる十分な形式を備えた論文となるよう努める。また、研究論文最終発表会へ向けて、プレゼンテーション技術の訓練も行う。</p>	
		<p>(24 波戸岡 景太) 対象とする研究分野・テーマ：トマス・ピンチョンを中心とした現代アメリカ文学・文化研究を専門とする。また、日米比較文化論的な観点から、ジャンル横断的なコンテンツ批評にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>総合芸術研究3までの成果を踏まえ、総合芸術研究の可能性を最大限に引き出せるような研究論文執筆の指導を行う。本科目では、これまでの研究成果を再検討することで議論の精度を高めるとともに、学際的な研究のスタンダードをかたちづくるような、バランスのとれた文章作成技術に力を注ぐ。また、博士前期課程で行われた研究の最終的な報告を行うために、再度プレゼンテーション技術の訓練を行い、議論の深みを失わずにして簡潔な口頭発表を実施する方策を身につける。</p>	
		<p>(25 鞍田 崇) 対象とする研究分野・テーマ：地球規模の環境・社会変化に伴う諸問題を克服する人文的アプローチ（環境人文学）の確立</p> <p>総合芸術研究3を受け、近年のデザインへの注目の高まりを、根源的な人間性の回復への社会的志向の現れとして位置づけ、その思想的背景の掘り下げを試みるとともに、デジタルよりもアナログ、ヴァーチャルよりもリアルに力点を置いたフィールドワークの実践を交えながら、とりわけ情緒や感情など、従来はデザインの対象とされてこなかった領域におけるその可能性を追及していく。また、本科目の最終段階では、研究成果の社会的意義につき自己評価を行い、これまでの研究を総括・報告する。</p>	
選択必修科目	建築史特論	<p>(概要) この講義では、日本建築の歴史を建物の意匠・空間・構造だけではなく、それを創り出した社会や理念といったさまざまな観点から多角的かつ批判的に論じ、かつ検討してゆく。</p>	隔年
	建築構法計画特論	<p>(概要) 建物の「ものとしての成り立ち」、すなわち建築構法について、学部レベルの知識を前提としながら、構法を「設計する」ための基礎的な技術を習得することを目的とする。構法は、建築設計図書において、詳細図として表現されることが多いが、ここでは、以下を具体的な到達目標に据える。 ・建物の詳細図の読み方を習得する。 ・最新の建物の構法についての動向、およびその設計上の工夫を理解する。 ・自らが構想する建物の計画理念にふさわしい構法を設計し、図面として表現する技術を習得する。</p>	隔年

まちづくり特論	<p>(概要)</p> <p>一つずつの「建物」と、その建物が集積し、連なることによって形成される「街」は、いわば部分と全体を意味し、そのどちらの局面においても、両者は人間の生活や社会的な諸活動に対して優れた機能と環境を約束するものでなければならない。また、建物や街を形成し、それをマネジメントし、持続させていくには多くの人々が関わり、建物や街のハード条件の他に、利害や権利調整等のソフトな条件も関係する。こうした、ある一つの現実的なまとまりのある空間の整備や維持・保全に係る諸活動を、「まちづくり」という概念で表す。</p> <p>本授業は、現実の地域や街区において様々な課題や論点の把握と解決する方法について学ぶ。また、まちづくり活動に実際に参加している様々な立場の人とのディスカッションを通じて、まちづくりに関する実践力を養う。</p>	
近代建築史特論	<p>(概要)</p> <p>今年度の授業では、「建築家の職能成立史 建築家とは何か」について授業を行う。</p> <p>建築家とはいかなるものであり、どのようにその職能が成立したのか、あるいは建築家と教育および社会制度との関わりは、国によってどのように異なるのかという問いは、将来建築の道に進むものにとって、自分の存在意義を歴史的に問うことであり、インターンシップを経験しようとするものにとっても必須であると考えられる。</p> <p>まず、日本の近代化にとってそのお手本となったイギリスおよびフランスにおける建築家職能成立史を取り上げ、その問題点とはいかなるものであったかを検証する。具体的には、19世紀から20世紀における建築家職能団体であるAA（建築協会）およびRIBA（王立英国建築家協会）の成立の経緯、フランスにおけるエコール・デ・ボザールの教育内容、イギリスにおける建築家資格と教育との関わり、ならびに他の職能である土木技術者との関係について議論を行う。次に日本における建築家職能成立史を取り上げ、明治初期から大正期にわたる、建築教育および建築家職能との関連について講義を行い、日本の建築家が抱える現代的な問題と照らし合わせながら、その問題点を検証する。</p> <p>各テーマごとに講師による講義、2回目は担当者による発表において個人あるいはグループで、日本における建築家の存在、ならびに職能の実態を調査し、その問題点が何かをプレゼンテーションする。発表内容はレポートとしてまとめ、授業最終日に提出する。</p> <p>この授業を通して近代建築に対する理解を深め、それに関わった建築家がどのように社会との関係をとらうとしてきたのかという普遍的な意義を議論することを目的としている。</p>	隔年
建築意匠特論	<p>(概要)</p> <p>【建築の先端デザインをリサーチする】</p> <p>建築意匠特論では、最先端の建築デザイン理論について考える。今日の建築デザインはますます高度化、複雑化しているため、複眼的な視点に基づき、あらゆる方向から理解し、検討を加える必要がある。ここでは建築デザインの今日の新たな問題を、便宜上、大きく以下の5つのテーマ（カテゴリー）に分けて考える。本講では、こうしたいくつかのトピックに精通することにとどまらず、それらのコンセプトが相互に関連づけられて、いかにしてひとつの建築が構築されているか、それぞれの受講者が理解し、概念の見取り図を構築することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【空間理論】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形手法、スタディ手法</li> <li>・空間構成の方法、新しいプランニングの開発</li> <li>・意味形成のメカニズムについての理論</li> </ul> </li> <li>2. 【環境計画、サステイナブルデザイン】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減型建築</li> <li>・CASBEE 建築物総合環境性能評価システム</li> </ul> </li> <li>3. 【設備エンジニアリング】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備デザインの現在</li> </ul> </li> <li>4. 【構造デザイン】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ等の新素材</li> <li>・構造新解析手法</li> </ul> </li> <li>5. 【新素材】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル材</li> <li>・高意匠/多機能ガラス</li> <li>・遮熱塗料</li> </ul> </li> </ol>	隔年
都市史特論	<p>(概要)</p> <p>日本の都市を歴史的に読み解く力を養う。先史・古代から現代までの日本都市史を軸としつつも、視野をグローバルに開いたかたちで講義を進める。なお、近代については都市計画分野と重複するテーマも含まれるが、計画の制度・技術を都市史的観点から批判的に扱うこととする。</p> <p>主たる目標は以下の三つである。</p> <p>第一に、都市の理念的なタイプロジーを理解し、日本および世界の都市を典型的に把握できる素養を身につけること。</p> <p>第二に、それら都市類型がどのような社会的条件と相応しているのかを理解すること。</p> <p>第三に、都市がダイナミックに変化する局面に注目して、そのプロセスとメカニズムについての想像力・思考力を養うこと。</p> <p>以上の素養は、日本都市の現在および将来を考える際の基礎となるものであり、建築史分野の専門家のみならず、都市計画・都市デザインはもとより建築設計者も広く身に付けるべきものである。</p>	隔年
建築計画特論	<p>(概要)</p> <p>本授業では、上述の状況を前提として、いくつかの建築タイプを取り上げて建築計画の最前線の知見や実践例を学び、現代社会で求められる多様な建築を計画するための課題や論点について学ぶ。また、対象とする建築タイプに精通した研究者・実務者から知見を学び、先導的な事例を見学してディスカッションすることで、理論と技術の両面から建築計画・建築設計に関する実践力を養う。教員2名が共同で授業を実施する。</p>	共同

都市計画特論	<p>(概要)</p> <p>現代及び将来の都市計画を考えるに際し、その背景として都市の歴史や文化を理解することが重要である。本論では主に明治期以降の東京の都市計画と都市開発事業を扱いつつ、比較対象として欧米の主なトレンドや事例も用いながら、「都市計画とは何を目的とするか、誰のために行うか、誰が主体となるか～」を主題とし、種々の計画論を扱う。都市計画が起案、実施された時代背景、主な法制度、市民参加方式等についても解説、討論する。</p>	
建築マネジメント特論	<p>(概要)</p> <p>建物を建てるという「行為」とその「実施プロセス」のことを「建築プロジェクト」と呼ぶとすれば、建築プロジェクトは、一連の「経済行為」として捉えることができる。</p> <p>本授業においては、こうした建築に係る一連の経済行為について、実際の建築プロジェクトを想定して、グループワークにより疑似体験することにより、建築プロジェクトに係る金融、税制、不動産、法制度等のしくみや、マーケティング、事業の成否性等について理解を深めることとする。具体的には、郊外住宅地における未利用地の活用事例と、市街地におけるコーポラティブ・プロジェクトの事例を想定している。</p> <p>本授業の到達目標は、建築プロジェクトの実施プロセスに係る一連の経済行為やその主体・組織や仕組みについての基本的な知識を身につけるとともに、都市や建築が、社会や経済の様々な活動と相互に影響を及ぼしあう中で存在していることを理解し、これからのストック時代における都市や建築の新たな方向性について、受講生一人一人が考察し、自らの視座を獲得することである。</p>	
都市解析特論	<p>(概要)</p> <p>都市デザインを行う上で、『都市を読む』という行為、すなわち都市解析は重要である。近年IT技術の進歩によりこの都市解析の手法も著しく進化している。中でもGISを応用した都市解析はデータおよび分析結果を可視化する上で大きな効果を発揮し、都市デザインの多くの可能性をビジュアルで示唆してくれるため、これからの都市解析方法としての期待が大きい。</p> <p>GIS (Geographic Information System) とは日本語で「地理情報システム」と訳され、『位置や空間に関する情報を持ったデータ (空間データ) を総合的に管理・加工し、視覚的に表示できる高度な分析や迅速な判断を可能にする技術』のことである (国交省HPより抜粋)。もともとはアメリカでランドスケープの調査のために開発されたものであるが、情報をビジュアライズする分析ツールとして都市解析においても大きなポテンシャルを秘めている。また、他のCADや3Dソフト、あるいは分析ソフトとの併用により、より多角的に都市解析に活用することが可能となる。</p> <p>都市解析特論では講義中の演習および演習課題により、他ソフトとの併用を含め、GISの技術と思想の両方を学習し、都市解析・分析へと応用できるスキルの習得を目的とし、①GISへの造詣を深めること、②ArcGIS (GIS専用アプリケーション) の操作技術の習得、および③GISを応用した都市解析およびシミュレーション技術の習得の3つを到達目標とする。</p>	
設計スタジオ A	<p>(概要)</p> <p>(科目種別) : 学内インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単体建物の設計: 単体の建築設計に必要な基本的な計画・表現技術などを習得させるため、戸建住宅、集合住宅、業務施設、教育施設などの基本的なプログラムの建物について設計演習を行う。</li> <li>設計の実務に必要な建築基準法の情報を習得し、基本計画、基本設計、実施設計レベルの図面表現を習得させる。外部からの実務者による講評を実施し、社会性、安全性、意匠性の高い設計演習を行う。</li> <li>表層的な建築デザインや抽象的なデザインコンセプトに満足することなく、意匠に加え、構造デザインや環境・設備計画的な視点を導入し、高度な建築として統合するための実践的な演習を行う。これを達成するため、指導スタッフには意匠設計の他、構造、環境の専門家が加わる。</li> <li>演習の指導を担当する専任教員、及び兼任教員は、設計実務に精通した有資格者 (一級建築士など) とする。</li> <li>講義は、教員3名が共同で実施する。</li> </ul>	共同
設計スタジオ B	<p>(概要)</p> <p>(科目種別) : インターンシップ関連科目 (演習)</p> <p>都市・集落などの特定地域をフィールドとした具体的・実践的な演習とする。</p> <p>今日の地域社会が抱える諸課題をリサーチを通じて把握・分析・表現するスキル、問題解決だけでなく来るべき社会＝空間像を描く構想力、関連する法規・制度や政策についての一定の知識、これらを総合して具体的な地区や公共空間・建築物の設計を行う能力の習得を目指す。</p> <p>今日の建築設計において前提となる、あるいは要請される構造・設備あるいは構工法・材料などの技術的水準についても、当該年度の課題設定に組み込んで履修生にその基礎的な知識を習得させる。</p> <p>演習の指導を担当する教員は設計実務に精通した有資格者 (一級建築士) とする。</p> <p>講義は、教員3名が共同で実施する。</p>	共同
設計スタジオ C	<p>(概要)</p> <p>都市的スケールの建築群と単体建物の設計: 海外の都市において、その都市独自の変容と敷地の読み取り、街区単位における環境整備のあり方、当該街区の将来の発展に即した適切な建築プログラムとそれに伴う空間ボリューム、動線計画、構造計画、設備計画、意匠設計の整合性、法規制など外的な条件の整理、などを総合的に検討し、建築の集合体をデザインする。</p> <p>海外における集中的演習: 海外の他大学と短期間の国際的なワークショップを共催し、実際の敷地と具体的な設計条件を設定し、実務的な検討内容、成果物を要求される設計課題に取り組む。これにより、実務の現場で学んだ知識・経験を具体的に運用し、確実に修得することが可能になる。外部からの実務者による講評を実施し、社会性、安全性、意匠性の高い設計演習を行う。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な演習である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習の指導を担当する教員は設計実務に精通した有資格者 (一級建築士) とする。</li> <li>講義は、教員3名が共同で実施する。</li> </ul>	共同
インターンシップ (意匠)	<p>(概要)</p> <p>(科目種別) : 学外インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物の設計または工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的とする。</li> <li>学生は建築設計業務を行う建築士事務所等に出向き、一級建築士の指導の下、設計・工事監理の補助業務を行いながら実務訓練を受けるものとする。</li> <li>授業は上記実務訓練とガイダンス、報告会等により構成され、実務訓練の時間は4週間 (120時間) 以上とする。</li> <li>1年次生は夏期 (春学期) または春期 (秋学期) のいずれか、2年次生は夏期 (春学期) に実施する。</li> </ul>	
構造性能特論	<p>(概要)</p> <p>(科目種別) : インターンシップ関連科目 (講義)</p> <p>構造設計を行うのに必要な法的規準の知識ならびに技術の習得を目的とし、現在のわが国の構造基準・規定の構成、要求性能、構造計算、構造細則について詳細な講義を行う。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>	
木質構造特論	<p>(概要)</p> <p>木質構造建築の構造設計の実務で必要となる設計方法の習得を目的とし、実例題を含めて講義を行う。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>	
鉄筋コンクリート構造特論	<p>(概要)</p> <p>(科目種別) : インターンシップ関連科目 (講義)</p> <p>鉄筋コンクリート構造およびプレストレストコンクリート構造における部材の許容応力度設計、終局強度設計および耐震診断に必要な変形性能確保の要件を実例題を含め講義する。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>	

先端建築特論	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(講義) 21世紀に入って建築や都市空間に対する要求条件は大きく変化してきた。それは価値観の多様化や地域立脚志向の強化あるいは地球環境問題への対応などである。しかし、一方で建築や都市を支える建築技術や計画技術などの進化や変化が著しい。 本科目では建築に関する社会経済情勢、情報技術等の実務に直結する動向を理解し、建築の実践に繋がる知識を習得することを目的とする。建築実務の設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。	
鋼構造特論	(概要) (授業の概要) 鋼構造では、鋼材の弾塑性特性に基づく骨組の弾塑性解析が極めて重要であり、授業ではこれらの構造特性及びこの特性を考慮した構造設計について学習する。 講義は、輪講会形式(第2回～第11回)で行う。理論式の理解またその式の展開など自ら行わせ、自分で考える習慣を身につけさせる。また、各自が発表することにより、聞き手にわかりやすい説明ができるためのプレゼンテーション能力の向上も図る。 (到達目標) 鋼構造を構成する材料、部材の弾塑性特性の仕組みを理解し、これらの弾塑性特性を用いた構造骨組の崩壊解析ならびにそれに基づく構造設計の基本を学習する。 具体的な到達目標： (1) 鋼材の弾塑性特性を理解する。 (2) 各種断面、部材及び骨組の弾塑性性状を理解する。 (3) 実際の建物の構造設計にどのように適用するかを理解する。	
シェル・空間構造特論	(概要) (授業の概要) シェル・空間構造とは、大きな空間を柱無しで覆うことのできる構造形式の総称である。身近な建物としては、体育館、展示場等が挙げられる。本講義では、この構造形式について、発展の歴史、構造的特徴、構造形式の種類、理論などの観点から講義する。また、実構造物を例に挙げその構造設計の考え方についても講義する。 (到達目標) シェル・空間構造の構造形式、理論などを理解し、通常のラーメン構造との違いを理解することを目標とする。 具体的な到達目標：(1) 各構造形式の特徴を理解する、(2) シェル理論を理解する。(3) 実構造物の構造設計の考え方を理解する。	
耐震構造特論	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(講義) 建物の構造設計に関する実務に必要な耐震工学の知識ならびに解析手法の習得を目的とした講義を行う。構造技術者、建設監理分野での建築士を目指す学生を対象として、地震に対する建物の安全確保のための動的解析に基づく耐震設計の原理およびその重要性を理解できることが目標である。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。	
建築振動特論	(概要) (授業の概要) 建築物の合理的な耐震設計は、地震に対する建築構造物の動的挙動の正しい理解に基づく必要がある。この講義では構造物の動力学の基礎ならびに地震応答解析に関する基本的な事柄を取り上げ、今日の耐震設計の実務にどのように取り入れられているのかを講義する。 (到達目標) 構造物のモデル化、固有値解析・振動解析および地震荷重の算定を行うことができ、それぞれの関係性を把握できることを到達目標とする。	
建築材料特論	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(講義) 標準仕様書(JASS)等を取り上げ、建築材料ならびに建築工事の品質確保の要点に関する講義を行い、建築工事における建築材料の性能の実現方法について習得する。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。	
資源循環特論	(概要) 持続可能な発展が可能な社会形成には、資源循環が重要な課題である。本科目では、国内外の建築資材(コンクリート、木、ガラス等)の再資源化に関わる技術やシステムを取り上げ、建築材料の資源循環性とそれが及ぼす環境影響について講義する。廃棄物処理やリサイクル製品の品質確保のための諸条件について、材料特性や社会的な背景など様々な面から比較することで、今後の建築材料、建築生産のあり方について習得させる。	隔年
建築施工特論	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(講義) 建築生産における施工について、工事監理・施工管理あるいは部位・材料の品質管理と、設計および設計監理の考え方を習得する。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。	
構造設計演習 A	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(演習) ・鉄筋コンクリート構造を主な対象とし、構造設計実務に即した課題を用いて構造設計の演習を行う。 ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な演習である。 ・この演習は、構造設計の実務に精通した一級建築士が担当する。	
構造設計演習 B	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(演習) ・構造設計実務に即した課題を用いて、鉄骨造の構造設計の演習を行う。 ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な演習である。 ・この演習は、構造設計の実務に精通した一級建築士が担当する。	
インターンシップ(構造)	(概要) (科目種別)：学外インターンシップ ・建築物の構造設計または工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的とする。 ・学生は建築設計業務を行う建築士事務所等に出向き、一級建築士の指導の下、設計・工事監理の補助業務を行いながら実務訓練を受けるものとする。 ・授業は上記実務訓練とガイダンス、報告会等により構成され、訓練時間は4週間(120時間)以上とする。 ・1年次生は夏期(春学期)または春期(秋学期)のいずれか、2年次生は夏期(春学期)に実施する。	
建築環境工学特論	(概要) (科目種別)：インターンシップ関連科目(講義) ・CASBEE評価の詳細について解説し、CASBEEで優れた評価を受けたプロジェクトについて、そのコンセプトや環境設計手法について講義する。 ・講義を通して、インターンシップを行う上で、建築設備設計者として必要な環境設計における考え方等の必要な知識を身につけさせる。 ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。	
建築環境解析特論	(概要) 建築環境工学分野、特に熱・空気環境分野では、急速なコンピュータの発展を背景に、数値解析手法が重要なツールとして設計技術の一翼をなしている。本講義では、今後環境解析ツールの主翼となるCFD解析について、基礎から応用まで講義する。	
建築環境評価特論	(概要) 住居・建築・都市などの環境評価における主要な調査分析手法を習得することを目的とする。当該研究分野における調査分析法・基礎理論を概観した後、調査分析手法の講義とその手法を用いた演習により学習を行う。	
建築水環境特論	(概要) 地球、地域・都市、建築の水環境および給排水設備について概観し、給排水設備の位置づけと将来を考察する。また、水の物理・化学的特性についての基礎知識と応用技術を習得する。	

給排水設備特論	<p>(概要)  (科目種別)：インターンシップ関連科目 (講義)  ・給排水衛生設備の計画・設計方法について、実施設計例や先端事例を用いて、そのコンセプトと設計手法について講義する。  ・講義を通して、インターンシップを行う上で、建築設備設計者として必要な環境設計における考え方等の必要な知識を身につけさせる。  ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>		
建築音響特論	<p>(概要)  建築音響に関わる理論と応用について解説し、建築・都市の音環境に関する諸問題の捉え方や問題解決のための方法について理解する。</p>		
設備計画特論	<p>(概要)  (科目種別)：インターンシップ関連科目 (講義)  ・実際の建物を例に、設備システム、電気設備、省エネルギー計画のコンセプトや設計手法、ライフサイクルアセスメント、コミッションングについて講義する。  ・インターンシップを行う前に、低炭素社会化の要求に対応した設備設計の重要性等、設備設計実務を行う上で必要な知識を身につけさせる。  ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>		
空調設備特論	<p>(概要)  (科目種別)：インターンシップ関連科目 (講義)  ・空調設備の計画・設計方法について、実施設計例を用いて、設備システム設計、熱源設備、蓄熱システム等について講義する。  ・講義を通して、インターンシップを行う上で、建築設備設計者として必要な環境設計における考え方等の必要な知識を身につけさせる。  ・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。</p>		
建築設備設計演習	<p>(概要)  (科目種別)：インターンシップ関連科目 (演習)  中規模事務所ビルを対象として、給排水衛生設備の設計計画、給排水機器の容量計算、仕様決定、配管サイズの計算等を行う。また、空調・換気設備については、熱負荷計算、必要換気量計算、空調・換気計画、空調機器容量や配管口径・ダクトサイズの計算や仕様決定等を行い、手書きによる給排水衛生設備設計図、空調換気設備設計図を作成する。  ・建築設備設計における現地調査、官庁打合せ、意匠・構造他の関係部署との設計コンセプトの醸成などから始まる一連の設計フローを理解する。  ・手書きによる設備設計技術を習得することにより基本設計段階における企画力を体得する。  また、省エネルギー、地球環境保全、空気汚染、温熱環境評価について建築設備技術者として実践的に捉えることのできる能力を養う。  ・インターンシップにおいて、設計図書の作成業務を行ううえで、最低限必要となる知識と技能を身につける。</p>		
インターンシップ (設備)	<p>(科目種別)：学外インターンシップ  ・建築物の設備設計または工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的とする。  ・学生は建築設計業務を行う建築士事務所等に出向き、一級建築士や建築設備士の指導の下、設計・工事監理の補助業務を行いながら実務訓練を受けるものとする。  ・授業は上記実務訓練とガイダンス、報告会等により構成され、実務訓練の時間は4週間 (120時間) 以上とする。  ・1年次生は夏期 (春学期) または春期 (秋学期) のいずれか、2年次生は夏期 (春学期) に実施する。</p>		
国際建築都市デザイン系特集科目群	Independent Study A	<p>(概要)  建築・都市デザインの実践的能力の獲得を目指す。  &lt;具体的な目標&gt;  (1) コミュニケーション能力と協調性を学ぶ。  (2) 国際力を取得する。  &lt;コース概要&gt;  ・学生が自主的に建築・都市デザインに関する実践的なトレーニングに参加する。  ・本科目は通常は、国際ワークショップの形で実施される。  ・本科目に履修登録する学生は、学習等の目的を事前に明確に説明し、指導教員の承認を得ることが必要である。  ・本科目は、自主的な学習を終了した後、成果品を作成し発表する。  ・本科目は春学期に実施するIndependent Study とする。運営・評価は、教員2名が共同で担当する。</p>	共同
Independent Study B	<p>(概要)  建築・都市デザインの実践的能力の獲得を目指す。  &lt;具体的な目標&gt;  (1) コミュニケーション能力と協調性を学ぶ。  (2) 国際力を取得する。  &lt;コース概要&gt;  ・学生が自主的に建築・都市デザインに関する実践的なトレーニングに参加する。  ・本科目は通常は、国際ワークショップの形で実施される。  ・本科目に履修登録する学生は、学習等の目的を事前に明確に説明し、指導教員の承認を得ることが必要である。  ・本科目は、自主的な学習を終了した後、成果品を作成し発表する。  ・本科目は秋学期に実施するIndependent Study とする。運営・評価は、教員2名が共同で担当する。</p>	共同	
Advanced Design Studio A	<p>(概要)  &lt;学習目標&gt;  ・住宅、オフィス、公共施設、商業施設、複合施設などの建築物を設計するために必要な、高度な計画・設計・表現技法を学ぶ。  ・多様な建物や街路・広場などの公共空間から成る都市空間のデザインを実践することで、都市デザインに関する高度な技術を修得する。  ・建築設計の実務を行うために必要な建築基準法の規定を学ぶ。  ・基本計画・基本設計・実施設計レベルの図面表現を修得する。  ・建築物の計画・設計に加えて、構造計画や設備計画を学ぶ  具体的な目標  (1) 建築家や都市デザイナーとしての社会性と広い視野の修得  (2) 建築家や都市デザイナーとしての倫理観や構想力の修得。  (3) 建築・都市デザインの技術と設計力の修得。  (4) 建築・都市デザインの専門知識の修得。  (5) 建築・都市デザインに関する技術的な知識の適用力の修得。  (6) 建築家や都市デザイナーとして必要なコミュニケーション能力と協調性の修得。  (7) 建築家や都市デザイナーとしての国際力の修得。  &lt;コース概要&gt;  ・建築設計の専門家に加えて、構造設計や環境設計の専門家を適宜招聘する。  ・学外講師を招聘して、高度な社会性・安全性・デザイン性などを考慮した講評会を行う。  ・指導を担当する専任教員、及び兼任教員は、設計実務に精通した有資格者 (一級建築士など) とする。  ・授業は、教員3名が共同で実施する。</p>	共同	

Advanced Design Studio B	<p>(概要)</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅、オフィス、公共施設、商業施設、複合施設などの建築物を設計するために必要な、高度な計画・設計・表現技法を学ぶ。</li> <li>・多様な建物や街路・広場などの公共空間から成る都市空間やキャンパス空間などのデザインを実践することで、都市デザインに関する高度な技術を修得する。</li> <li>・海外ワークショップや海外協定校とのパラレルスタジオなどを通して、国際的環境での建築・都市デザインとコミュニケーション能力を修得する。</li> </ul> <p>具体的な目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 建築家や都市デザイナーとしての社会性と広い視野の修得</li> <li>(2) 建築家や都市デザイナーとしての倫理観や構想力の修得。</li> <li>(3) 建築・都市デザインの技術と設計力の修得。</li> <li>(4) 建築・都市デザインの専門知識の修得。</li> <li>(5) 建築・都市デザインに関する技術的な知識の適用力の修得。</li> <li>(6) 建築家や都市デザイナーとして必要なコミュニケーション能力と協調性の修得。</li> <li>(7) 建築家や都市デザイナーとしての国際力の修得。</li> </ol> <p>&lt;コース概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外ワークショップや海外協定校とのパラレルスタジオなどを、通常の実習に加えて実施する。</li> <li>・学外講師を招聘して、高度な社会性・安全性・デザイン性を考慮した講評会を行う。</li> <li>・指導を担当する専任教員、及び兼任教員は、設計実務に精通した有資格者（一級建築士など）とする。</li> <li>・授業は、教員6名が共同で実施する。</li> </ul>	共同
Advanced Design Studio C	<p>(概要)</p> <p>Course Summary &amp; Learning Objectives (Learning Objectives)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Acquire advanced skills of planning and expression necessary for building design through design practices of residential, office, institutional, commercial and other facilities.</li> <li>・Acquire advanced skills of district design through design practices of district consisting of multiple buildings and public spaces.</li> <li>・Learn provisions of the Building Standard Law necessary for building design practice.</li> <li>・Acquire drawing skills at the levels of basic design, schematic design, and detailed design</li> <li>・Implement practical training in structural design and equipment planning in addition to building design and planning.</li> </ul> <p>Specific Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Acquire social awareness and a broad perspective as an architect or urban designer</li> <li>(2) Acquire ethics and conceptual ability as an architect or urban designer.</li> <li>(3) Acquire technical and design expertise on architectural and urban design.</li> <li>(4) Acquire expertise in architecture and urban design.</li> <li>(5) Acquire applied ability of technical knowledge on architecture and urban design</li> <li>(6) Acquire communication and coordination abilities necessary for architects and urban designers.</li> <li>(7) Acquire international ability for architects and urban designers.</li> </ol> <p>(Course Summary)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Experts on structural design and environmental design in addition to experts on building design instruct the studio.</li> <li>・Invite extramural practitioners to review sessions to introduce social, safety and design aspects of high quality.</li> <li>・All instructors in charge are qualified architects and practitioners.</li> </ul> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅、オフィス、機関、商業施設などを設計するために、建物設計に必要である高度な 計画・表現技法を学ぶ</li> <li>・多様な建物や公共スペースから成る地域デザインを構築することで、地域デザインに関する高度なスキルを取得する。</li> <li>・建物設計を実現するために必要な建築基準法の規定を学ぶ。</li> <li>・基本的なデザインや概略デザイン、詳細なデザインのレベルで製図技術を学ぶ</li> <li>・建物の設計・計画に加えて、構造設計や設備計画の実践的に学ぶ</li> </ul> <p>具体的な目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 建築家や都市デザイナーとしての社会性と広い視野の取得</li> <li>(2) 建築家や都市デザイナーとしての倫理観や構想力の取得。</li> <li>(3) 建築・都市デザインの技術と設計力の取得。</li> <li>(4) 建築・都市デザインの専門知識の取得。</li> <li>(5) 建築・都市デザインに関する技術的な知識の適用力を取得。</li> <li>(6) 建築家や都市デザイナーとして必要なコミュニケーション能力と協調性の取得。</li> <li>(7) 建築家や都市デザイナーとしての国際力の取得。</li> </ol> <p>&lt;コース概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計の専門家に加えて、構造設計と環境設計の専門家が本スタジオで指導する。</li> <li>・学外講師を招致して、高度な社会性、安全性やデザインを紹介するための講評会を行う。</li> <li>・担当する全講師は、建築士や実務家である。</li> <li>・授業は、教員4名が共同で実施する。</li> </ul>	共同

Advanced Architectural Design	<p>(英文)</p> <p>Course Summary &amp; Learning Objectives  (Course Category) : Internship related (lecture)  (Learning Objectives)  Acquire structured theory concerning the realization of architectural design in urban settings, through lectures on history of cities, legal frameworks, design theories of architectural and urban design.</p> <p>Specific Objectives  (1) Understand the history of city's transformation process and the state of legal framework which affects the townscape morphology and building forms.  (2) Structure diverse theories concerning the architectural design and urban design.  (3) Acquire basic practical knowledge through the comparative studies of the legal frameworks and the townscapes in different countries.  (4) Acquire basic practical knowledge through the case studies of the real architectural works.</p> <p>(Course Summary)  • This is a lecture course in order to understand the theoretical framework relating to architectural and urban design through the various level of studies, and apply the acquired understanding to real architectural design practices.  • This lecture course is essential relating to the internship in the field of architectural design and supervision practices.  • All instructors in charge are qualified architects and practitioners.</p> <p>(和訳)</p> <p>&lt;学習目標&gt;  都市の歴史に関する講義を通じて都市部の建築設計の実現に関する構造化理論、法的枠組み、建築・都市デザインの設計理論を取得します。</p> <p>具体的な目標  (1) 都市の変遷プロセスの歴史と景観・建物の形態に影響を与える法的枠組みを理解する。  (2) 建築設計と都市デザインに関する多様な理論を構築する。  (3) 国によって異なる法的枠組みや街並みの比較研究を通じて、基本となる実践的な知識を取得する。  (4) 実際の建築作品のケーススタディを通じて、基本となる実践的な知識を取得する。</p> <p>&lt;コース概要&gt;  • 本講義では、様々な研究水準や実際の建築設計から得られた知識を適用することで、建築・都市デザインに関する理論的な枠組みを理解する。  • 本講義は、建築設計・管理の実務分野でのインターンシップが不可欠である。  • 担当する全講師は、建築士や実務家である。</p>	
-------------------------------	--	--

<p>Advanced Urban Design</p>	<p>(英文)  Course Summary &amp; Goals  (Learning Objectives)  To understand the physical environment of cities and the elements that compose city spaces, and acquire practical knowledge regarding the theory, method and process of urban planning and design.  Specific Objectives  (1) Understand the importance of physical environment of cities as a whole that support social and economic activities.  (2) Understand the physical environment of cities and the elements that compose city spaces.  (3) Understand the theories regarding urbanism.  (4) Acquire practical knowledge regarding the method and the process of urban planning and design.  (5) Acquire practical knowledge regarding how to visualize urban planning and design ideas.  (Course Summary)  The aggravation of global environmental, social and economic issues requires us to change the way to design cities and buildings. Cities need to be designed more diverse, compact and well-connected with street networks and public transit systems. Districts and buildings need to be designed to accommodate a variety of human activities and more responsive to the local environment, context and culture.  This course focuses on the physical environment of cities, city elements, and the relationship between buildings and public spaces, and students will deepen their understanding of these topics through lectures and researches. The course also focuses on the practical method and the process of urban planning and design, and students will acquire the practical ability through lectures and assignments.  (要約)  ・物理的都市環境や都市空間を構成する要素を理解するために、都市計画・設計の理論や方法およびプロセスに関する実践的な知識を習得する。  具体的な目標  (1) 社会・経済活動を支える統一体としての物理的都市環境の重要性を理解する。  (2) 物理的都市環境と都市空間を構成する要素を理解する。  (3) 都市計画に関する理論を理解する。  (4) 都市計画・都市デザインのプロセスに関する実践的な知識を取得する。  (5) 都市計画・都市デザインを視覚化する方法について実践的な知識を取得する。  &lt;コース概要&gt;  地球環境、社会、経済問題の悪化によって、都市や建物の設計方法を変えていくことが必要となる。都市は、より多様でコンパクトかつ接続しやすい街路網や公共交通機関を設計していく必要がある。地区と建物は様々な人間の活動を内包し、地域環境や属性、文化に適応するように設計していく必要がある。本講義では、物理的都市環境、都市の要素、および建物や公共スペース間の関係に着目し、学生が講義や調査を通じて、これらのトピックの理解を深めていく。また本講義は、実践的な方法や都市計画・都市設計のプロセスに焦点を当て、講義や課題を通して実践的な能力を養う。</p>	
<p>Urban and Architectural History</p>	<p>(英文)  Course Summary &amp; Learning Objectives  This is an intensive course implemented through lectures, museum visits and field works.  Learning Objectives:  Acquire comprehensive knowledge concerning the morphology and history of Japanese cities and urban architecture mainly focusing on Edo-Tokyo, which serves as a basis for urban design and architectural design in the urban context.  Specific Objectives:  (1) Acquire knowledge about the evolution of typology of city forms in Japanese history including ancient capital, diverse categories of medieval urban space, jōka-machi (Japanese castle town) in Edo period and modern city.  (2) Understand the characteristics of urban tissue of downtown Edo consisting of commoner's machiya-type of town houses and its background such as development pattern and land/building ownerships.  (3) Acquire knowledge concerning the relationships between land use pattern and geography, urban policy and social strata.  (4) Acquire knowledge about modern transformation of Edo into Tokyo which can be traced in former downtown, amusement districts, water edges and residential areas for samurais.  (要約)  コース概要&amp;学習目標  本講義は、講義や博物館訪問・フィールドワークを通じた集中授業である。  学習目標:  都市背景における都市デザイン、建築デザインの基礎を供する江戸期の東京に焦点を当てた日本都市と都市建築の形態や歴史に関する総合的な知識を習得する。  具体的な目標:  (1) 古都、中世の多様な都市空間、江戸時代の城下町(日本城下町)、現代都市を含む日本の歴史の中で都市型の類型の進化についての知識を取得する。  (2) このようななどのタウンハウスとその背景の民衆の町家型から成る長屋や開発パターン、土地/建物の所有権などの背景から成る江戸の都市群の特徴を理解する。  (3) 土地利用パターンや地理、都市政策と社会階層間の関係についての知識を習得する。  (4) 旧繁華街、娯楽地区、水際、武士の住宅地等が江戸から東京に近代化する変遷についての知識を取得する。</p>	

Advanced Sustainable Design	<p>(英文) Course Summary &amp; Goals (Course Category) : Internship related (lecture) (Learning Objectives) Acquire comprehensive knowledge concerning the realization of sustainability through lectures on urban design, landscape design, architectural design, environmental design and environmental technologies Specific Objectives (1) Understand the state of environmental issues in the modern world and the importance of solving those issues. (2) Acquire comprehensive knowledge concerning the realization of sustainability. (3) Acquire basic skills of applying the knowledge to the overall architectural practices. (Course Summary) ・ This is a lecture course in order to understand environmental, social and economic sustainability issues relating to architectural and urban design and apply the understanding to architectural design practices. ・ This lecture course is essential relating to the internship in the field of architectural design and supervision practices. ・ All instructors in charge are qualified architects and practitioners.</p> <p>(和訳) コース概要&amp;目標 &lt;コースカテゴリ&gt;: インターンシップ関連 (講義) &lt;学習目標&gt; 都市デザイン、景観デザイン、建築デザイン、環境デザインと環境技術に関する講義を通じ、持続可能性の実現に関する総合的な知識を習得する。 具体的な目標 (1) 現代社会における環境問題や、それらの問題を解決することの重要性を理解する。 (2) 持続可能性の実現に関する総合的な知識を習得する。 (3) 建築の実用的な知識を適用することの基本的なスキルを取得する。 &lt;コース概要&gt; ・ これは、建築・都市デザインに関連して、環境的、社会的、経済的持続可能性の問題を理解したうえで、建築設計の実務に適用していくための講義である。 ・ 本講義は、建築設計・管理の実務分野でのインターンシップの参加が不可欠である。 ・ 担当する全講師は、建築士や実務家です。</p>	隔年
Advanced Project Management	<p>(英文) Course Summary &amp; Learning Objectives (Course Category) : Internship related (lecture) (Learning Objectives) To understand the importance of and acquire the practical knowledge of management in architecture, namely, that of organizations, of projects, and of architects themselves in the context of contributions to the society. Specific Objectives 1) Understand the business of architecture in the competitive context of global economy. 2) Acquire practical knowledge about the management of architectural practice. 3) Acquire practical knowledge on the project management of urban development and architectural projects. (Course Summary) The project management is essential in all aspects of architectural and urban improvement endeavors. Planning, design, and construction can lead to a great piece of architecture or urban improvement only through sensible project management. The needs of management in fact start with the architect's own practice, his/her firm, as well as relationship building with the clients. As a part of the Professional Course, this course emphasizes, not the talents and expertise, which are what architects sell, but how to market, package, and deliver them in a sustainable business context, with a hope that the student will be equipped with the basic knowledge of the real life rigor of business of architecture, once he/she leaves the academia. Class discussions will touch on how to run a practice, the importance of design proposal, understanding of client's values and perspectives, human aspects of project delivery, protection of your business, as well as the workings of large scale urban redevelopment projects from the viewpoints of developers and project managers. Students are expected to contribute, in class discussions, their experience of and insight about projects they are familiar with. Regular writing exercises will be given to allow students to acquire familiarity with the language often encountered in the architectural business environment. Students are expected to submit the assignments in time for evaluation.</p> <p>(和訳) コース概要及び学習目標 &lt;コースカテゴリ&gt;: インターンシップ関連 (講演) &lt;学習目標&gt; 建築管理における実践的な知識、すなわち組織、プロジェクト及び社会貢献を背景とした建築家自身に関する知識を修得する重要性及び必要性を理解する。 具体的な目標 1) グローバル経済における競争の背景における建築業界を理解する。 2) 建築実務の管理に関する実践的な知識を取得する。 3) 都市開発と建築プロジェクトのプロジェクトマネジメントに関する実践的な知識を習得する &lt;コース概要&gt; プロジェクト管理は、建築や都市を改善する試みにおけるあらゆる側面で必要不可欠である。合理的なプロジェクト管理を通じてのみ企画、設計、施工が素晴らしい建築作品や都市の改善につながる事が出来る。 実際に、管理の必要性は、顧客との関係構築と同様に、建築家自身の実務や所属している会社から始まる。コースの一環として、学生が大学を離れる際に現実の厳しさの基本的な知識身に付けておく事を期待し、このコースでは、建築家が売りとする才能と専門知識ではなく、持続可能なビジネスを背景に、いかに販売、提示、供給するかを重視する。 授業での議論は設計提案、クライアントの価値観や考え方の理解、プロジェクト実現の人間の側面、ビジネスの保護の重要性等について、デベロッパーやプロジェクトマネージャの視点から大規模な都市再開発プロジェクトで働く事同様にどの様に実行するかについて触れる。学生達は精通している自身の経験や洞察力で授業での討議に参加する事を期待する。建築ビジネス環境下で良くみかける専門用語を熟知、修得するために筆記の演習を都度与える。評価時期に宿題を提出する事が望まれる。</p>	
総合芸術系特修科目群 アート造形学	<p>(概要) この授業では、首都圏の主要美術館で開催されている企画展等を調査することを通じて、現代の視覚芸術における「造形性」を念頭に置きながら、より多角的な批評的なアプローチを試みる。モダニズム美術の主要素を成すと考えられてきた造形性(点、線、面、形象、色彩とそれらの構成)を再考するなかで、アートのフィールドを造形と非造形、意味と無意味、対象と無対象、作為と無作為、物質と非物質など、両価値的な力が戯れ拮抗する場としてとらえ直したい。 展覧会調査と発表・討議を通じて、今日的な視覚芸術の見方の基礎を獲得することを到達目標とする。</p>	
デザインアート史	<p>(概要) この授業では、デジタルコンテンツ分野におけるデザイン実作の可能性を視野に入れて、今日必要とされる知識と技術を、時代におけるコンテンポラリー・アートとデザインの関係性と流れを中心に考察する。また、美術・音楽・文学など異なる分野間の多様な連携から生まれるデザインの思考や方法を、デザイン制作の実践例に即して紹介する。さらに、「デジタルの時代」にますます必要となってきた、「手仕事性」あるいは「身体性」を踏まえたデザインの重要性を、あえて「紙」メディアのグラフィックデザインを実制作することにより体得してもらう。</p>	

メディア図書館論	(概要) 図書館には知識分類の歴史がぎっしりと詰まっている。世界を表わすことば、ことばを記した書物、書物を収蔵する図書館、事物を保管する博物館、視覚に訴える情報を電子アーカイブへと収蔵する流れのなかで一貫して変わらない特徴がある。それは情報や事物（コンテンツ）を孕むことにより容器（コンテナ）自体が帯びる媒体、触媒、霊媒的な作用のことである。このような仕掛けを孕んだ空間や容器をメディアと呼ぶ。この授業では、とくに博物館や図書館・アーカイブなどの、人間を包んで啓発する「精神高揚のための媒体」（Medium of Mind Enhancement）について自由な発想を交換し合うことを目標にする。	
映像文化特論	(概要) 現代映画論。20世紀後半以後の世界映画のいくつかの作品を見て、特にそこに描かれる文化衝突に焦点をあて、分析し、議論する。記号論的・物語論的・歴史的・人類学的な思考態度への導入を兼ねる。	
音楽コンテンツ特論	(概要) 前半で主にポピュラー音楽の歴史を概観し、次に音楽の聴取環境の変化と、変化をもたらした様々な要因について考察する。なぜそうした検討が必要なのかといえは、音楽をめぐる様々な議論は、音楽を聴く環境の変化に即応して変遷しているからである。いま問うべき音楽の諸問題のありかを示したい。	
写真コンテンツ特論	(概要) 日本の戦後の写真の特徴を検証し、現代写真作品のより深い理解をめざす。特に、オーソドックスな写真史ではあまり考察されてこなかった写真装置（カメラ、フィルム、印画紙、薬品など）と実際の写真作品との関連性を具体的に検証していくことが中心となる。ここでは、作家論や作品論からは見えにくい、その写真作品がもつ社会性、歴史性、政治性が浮き彫りにされ、より広い視野からの「写真イメージ」の理解が目指されている。	
社会表象特論	(英文) Slavoj Zizek is one of the most influential philosophers in contemporary society. His theory is primarily based upon Jacques Lacan's psychoanalysis. Zizek has tried to show his ideas through the analysis and interpretation on cinemas. Now he is the greatest theorist in cinema studies. In this class, we will read his interesting small book The Art of the Sublime Ridiculous and have a discussion on subjects in this text. According to this text, Lost Highway (directed by David Lynch) is a meta-commentary on cinemas. Through relating this Lynch's work to many great movies, this text become a unique short history of cinema. The basic insight on which this text is based is that the woman in the classic film noir (1930's-40's) is the exact opposite of the woman in neo-noir (1980's-90's). This opposition reflects the difference between modern society and post-modern society. Therefore we will arrive at the sociological consideration on post-modernity by investigating the cause of difference between classic noir and neo-noir. We will watch some movies mentioned in this text. (和訳) スラヴォイ・ジジエクは、現代社会において最も影響力を持つ哲学者の一人です。その理論は、主としてジャック・ラカンの精神分析学に基づけられているのですが、ジジエクは彼自身のビジョンを具体化するために、映画分析とその解釈に注力してきました。そのため、ジジエクは今や、映画研究の分野においても、第一線の理論家と目されています。 本講義では、ジジエクの著した興味深い小著The Art of the Ridiculous Sublimeを読みながら、そこで扱われている主題についての議論を行います。同書においてジジエクは、デヴィット・リンチが監督した映画Lost Highwayを、映画そのものについてのメタコメンタリーであると定義づけ、さらに、名作や傑作と呼ばれる他の映画に、このリンチ作品を関連づけてみせます。つまり、The Art of the Ridiculous Sublimeとは、他に類を見ない映画小史の書でもあるのです。 同書はまた、1930～40年代のクラシック・フィルム・ノワールに描かれた女性像が、1980～90年代のネオ・ノワールが描くそれと、まったく反対のものであるという洞察にも基づいています。こうした対立が示しているのは、近代社会とポストモダン社会の差異に他なりません。つまり、私たちはクラシック・フィルム・ノワールとネオ・ノワールの差異がいかにして生じたかを調べることによって、ポストモダンティとは何かという社会学的考察に到達することができるのです。 なお、本講義では、同書の言及する映画作品を幾つか選び、実際に鑑賞します。	
文芸コンテンツ特論	(概要) 現在のコンテンツを批評・研究するにあたって、海外からの視点は欠かせない。本講義では、文化人類学者アン・アリスンによる日本論『菊とポケモン』（原題[i]Millennial Monsters[i]）を精読することで、現代日本の「カルチャー」を多角的に観察する方法の習得を目指す。	
アーカイブ・コンテンツ特論	(概要) 公文書館・図書館・博物館などのアーカイブは、いまデジタル複製技術の活用によってラディカルな変質を経験しつつあるが、その本質は依然として一次資料＝「オリジナル」のコンテンツをいかに保存・研究し、後世に伝えるかにかかっている。一方で「展示・普及」活動が、これまで以上にアーカイブ本来の「保管」と拮抗するまでに重視されていることに留意する必要がある。このことは、アーカイブをめぐる知の権力構造に、変質をもたらしている。 この授業では主に「もの」としての作品・資料を扱う美術館・博物館でのコレクションの展示調査を通じて、一次資料（「実物」）の様相についての批評的な理解と分析を深める。併せて複製技術がいかにこれらのコンテンツの成立や普及・流通に関わっているかについて、また美術館・博物館における企画展示・保存の実際についても、批評・検証する。 この授業では、調査とその成果の発表・討議を通じ、今日的なアーカイブとコンテンツの関係、またコンテンツの価値の一端について、基礎的な認識を獲得することを到達目標とする。	
コンテンツ批評特論	(概要) 「デジタルコンテンツ批評」の試み。つまり、現代においてデジタルメディア上で流通するすべての内容を対象とし、それを吟味し、歴史的に位置づけ、今後の創造への契機を探ることが目的。具体的には、各自が興味をもつコンテンツ分野における作品群について、言葉で論じ、文章として書けるようにすることをめざす。とりあげる分野は基本的には自由だが、同時に、自分が思ってもみなかった分野のおもしろさを発見できる機会としたい。毎回2、3名が交互にプレゼンテーションを行ない、それに続くディスカッションによって進めてゆく予定。毎回必ず全員に発言を求める。	

	プレゼンテーション法	<p>(概要)</p> <p>本授業の目的は、学会発表に限らず、広く社会で役に立つプレゼンテーション・スキルを身に付けることである。近年、「パワーポイント」に代表されるプレゼン・ソフトの普及によって、視覚的には高度なプレゼンが可能となったが、プレゼン・ソフトへの過度の依存は、事前に準備された視覚情報に頼りきってしまうことを意味し、相対的に、「語る力」を弱めてしまう。</p> <p>こうした視覚偏重型プレゼンの弊害は、プレゼンを「される」側であった場合を想像すれば明白である。会場に映し出されたスライドがどれほど魅力的であっても、発表者の言いたいことが伝わってこなければ、聴き手にとってそれは、スクリーンに拡大されたパンフレットを、はじから読まされているようなものである。</p> <p>プレゼンテーションを上達させる近道。それは、「語る力」を向上させることです。伝えるべき情報を取捨選択し、適切な順番にならびかえた上で、できるだけ短時間でそれを聴き手に届けること。グループでの練習や、全体にむかっけての発表を繰り返すことで、「語る力」を集中的に鍛え上げていきます。</p>	
	映画と都市	<p>(概要)</p> <p>映画論といってもその幅は広く、また都市論の場合も同様だが、本講義では、この両者が出会う地点、つまり、両者の構造における相互照応関係が成立する地点において、「現代」がどのように描出されてきているかを分析する。そして具体的な作品分析を通して、映画にとって、場所性がいかにその本質にかかわるものであるか、また、国家（ネーション・ステート）ではなく都市（シティーズ）に視点を取ることで、いかに国家史観が不十分なものであるかを理解することが目標となる。</p>	
	文学と都市	<p>(概要)</p> <p>都市にかかわる詩的な想像力は、作品を生むトポスである都市の生成と、相互的かつ必然的な関係がある。そうしたことを、啄木以降現代までの日本近・現代詩と、その背後にあった「東京」の生成の関係を分析することで、検証してゆく。また同時に、日本語による都市芸術の可能性そのものについても探求するが、その際には、散文作品やJ-POP作品なども分析の対象とする。もちろん、背景的知識として、20世紀の日本社会の変容についての理解も求められる。</p>	
	環境と人文学	<p>(概要)</p> <p>近年、地球環境問題の解決に向けた社会変革をうながす要として、人文的視点が求められています。この授業は、そうした議論の社会的背景を解説するとともに、哲学・思想、民俗、芸術、建築・工芸、デザインなど様々なジャンルの動向を参照しつつ、今日求められている「人文性」の内実を明らかにすることで、これからの社会と暮らしのあり方を設計するための基礎となる思索力の獲得を目的とするものです。したがって、「人文学」とはいうものの、既存の人文学を「環境」という文脈から再定義するものではありません。むしろ、環境問題をはじめとする社会問題への取り組みから、新しい人文学を創出する担い手の養成を試みます。より実践的な科目である「環境とデザイン」と相補関係にあり、基本的には講義形式としますが、授業内でのディスカッションを重視します。</p>	
	環境とデザイン	<p>(概要)</p> <p>現代社会において、デザインの役割はますます重要になってきている。ここでいうデザインは、特別な専門技能としてのそれではない。言語と並んで人間の本質をなすものであり、知識よりも体験を重視し、五感によって感受される仕方で表現する能力を指すものである。近年のデザインへの注目の高まりは、根源的な人間の回復への社会的志向の現れといってもよい。そうした現状をふまえつつ、この授業では、デジタルよりもアナログ、ヴァーチャルよりもリアルに焦点を置いたフィールドワークの実践を交えながら、とりわけ情緒や感情など、従来はデザインの対象とされてこなかった領域におけるその可能性を追究していく。ねらいは、思索力の獲得を主眼とし、どちらかといえば理論的な科目である「環境と人文学」に対し、表現力の基礎を培うことにある。</p>	
	総合芸術特論	<p>(概要)</p> <p>今日の芸術は、地球環境の未来に対する洞察と、人類の歩んできた歴史に対する批判的視座を兼ね備えて制作され、また享受されるものでなければならぬ。本授業では、こうした社会的要請を踏まえ、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの幅広い分野における具体的な作品・資料の実際を学ぶ。</p> <p>その際には、社会・経済・歴史・地理などの問題領域、さらには都市学や地域研究、比較文化論との関連に留意し、かつ芸術に携わる様々な立場(制作者、批評家、ジャーナリスト、キュレーター、編集者など)の実践についても、併せて基礎的な理解に到達することを目標とする。</p>	
共通 総合 科目 目録	科学論文英語特論	<p>(概要)</p> <p>マイクロ・ナノテクノロジーは広い技術分野に革新をもたらし、熱工学においても従来の枠を越えた応用が広がりつつある。本講義では、先進技術に触れ、その基礎となる物理を正しく理解することを目的とし、微小スケールでの物理、熱・流動現象の基礎、MEMS技術、微小センサやデバイスの広範囲な応用について講義する。また、微細加工技術を導入することを想定したオリジナルセンサの考案、力学的、熱的評価を含む設計を行い、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>本講義の到達目標は、マイクロ・ナノ熱工学の広い応用性と微細加工プロセスによる先端工学を理解できる能力を身につけることである。</p>	
	理工学研究科総合講義A	<p>(概要)</p> <p>本講義では様々な概念の数学的取り扱いについて学ぶ。講義で取り上げる概念は、証明、計算、確率、ランダム、検定、情報、推論などである。これらの概念は素朴な理解では混乱を招くことがある。これらの概念に関連する不可能性やパラドックスの発見を通じて、数学的な取り扱いがどのように修正されてきたかを学ぶ。</p>	
	理工学研究科総合講義B	<p>(概要)</p> <p>脳神経科学、心理学、数物理学、工学などの様々な研究分野の集合体である認知科学について学ぶ。各研究分野の専門家が講義する。その基礎知識から最新トピックスまでを理解し、受講者自らが各問題点を考えられることが到達目標である。</p>	

		学際領域特論A	(概要) 日本の科学技術力は極めて高く、その水準は世界的にもトップに位置するが、技術マネジメントの水準の低さが指摘されている。我が国の産業競争力の強化を図るためには、技術の成果を事業につなげ、経済的付加価値に転換するマネジメントが重要であり、産業界においてはその知識を有する人材の早急な育成が期待されている。技術経営 (MOT: Management of Technology) に関連する分野は多岐にわたるので、本講では特徴的な話題を取り上げ、MOTで必要とされる知識の概要を理解することを目的とする。	
		学際領域特論B	(概要) 21世紀のわが国が目標に掲げているのは、「知的財産立国」である。その取り組みの一つが大学の知的財産の有効活用を考えた産官学連携であり、現在最も重要視されている。ここでは実務家の弁理士の方々を中心に知財についての必要事項を講義する。	
自由科目	共通基礎科目	理工学研究科基礎特論A	(概要) 理工学研究科では理学、工学を融合した高度に専門性の高い研究・教育を行い、多様化と専門化が求められている現状に即した教育を行っている。そのため、専攻分野以外の科目履修だけでなく、学部設置科目の履修も認めている。指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに、大学院の科目として最大10単位まで履修することができる。ただし、修了要件には含まれない。	
		理工学研究科基礎特論B	(概要) 理工学研究科では理学、工学を融合した高度に専門性の高い研究・教育を行い、多様化と専門化が求められている現状に即した教育を行っている。そのため、専攻分野以外の科目履修だけでなく、学部設置科目の履修も認めている。指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに、大学院の科目として最大10単位まで履修することができる。ただし、修了要件には含まれない。	
		理工学研究科基礎特論C	(概要) 理工学研究科では理学、工学を融合した高度に専門性の高い研究・教育を行い、多様化と専門化が求められている現状に即した教育を行っている。そのため、専攻分野以外の科目履修だけでなく、学部設置科目の履修も認めている。指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに、大学院の科目として最大10単位まで履修することができる。ただし、修了要件には含まれない。	
		理工学研究科基礎特論D	(概要) 理工学研究科では理学、工学を融合した高度に専門性の高い研究・教育を行い、多様化と専門化が求められている現状に即した教育を行っている。そのため、専攻分野以外の科目履修だけでなく、学部設置科目の履修も認めている。指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに、大学院の科目として最大10単位まで履修することができる。ただし、修了要件には含まれない。	
		理工学研究科基礎特論E	(概要) 理工学研究科では理学、工学を融合した高度に専門性の高い研究・教育を行い、多様化と専門化が求められている現状に即した教育を行っている。そのため、専攻分野以外の科目履修だけでなく、学部設置科目の履修も認めている。指導教員が研究・教育上有益かつ理工学部在籍する学生の教育に支障が無いと認めるときに、大学院の科目として最大10単位まで履修することができる。ただし、修了要件には含まれない。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科建築・都市学専攻(D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	研究指導	(概要) 建築学系。国際建築都市デザイン系，総合芸術系に係る博士論文執筆のための指導を行う。	
		(1 園田 眞理子) 対象とする研究分野・テーマ：少子・高齢化社会に対応した住宅・建築計画，郊外住宅地の持続と再生に関する計画  少子高齢社会に対応した住宅・建築計画，建築・都市空間に関するバリアフリーデザイン，ユニバーサルデザイン等について専門的に研究，討議する。また，研究成果にもとづき，建築計画の立案や試設計を行う。 履修者は，当該テーマに関する理解を深め，研究課題の適確な設定力，研究方法の企画・立案力，研究の実行力を修得することを目標とする。また，得られた研究成果から，具体的な建築環境を計画・設計する能力を養うこと。	
		(2 田中 友章) 対象とする研究分野・テーマ：場所に応答する敷地計画に関する研究，複数敷地区画の包括的・協調的計画に関する研究  建築計画と建築設計は，時代や社会の要請や個別の与条件に応じて良い建築を生み出すために，理論的かつ技術的に建築のあるべき姿を考え，その実現をはかるための連関した行為である。このような観点から，計画（Planning）や設計（Design）を行なう技術や方法についての実践的な研究を行なう。 各自の研究テーマについて，時代状況をふまえて社会的・学術的な位置づけを認識した上で，既往研究等の文献調査，事例調査や現地調査，理論や技法の調査・研究をそれぞれ適切な方法を用いて行ない，具体的なデザイン提案などをも含んだ研究成果をまとめることを目標とする。	
		(3 山本 俊哉) 対象とする研究分野・テーマ：都市のリノベーション、エビデンスに基づいた安全・安心、クリエイティビティ、地域のコラボレーションを促進する計画技術など次世代型の都市計画に関する研究  近年の社会経済の変化の潮流を踏まえつつ、具体的なフィールドにおいて地域のコンテキストを読み、各種ステークホルダーと向き合いながら、地域のニーズと課題を的確にとらえ、エビデンスに基づいて論理展開する能力を養う。	
		(4 荒川 利治) 対象とする研究分野・テーマ：減衰特性が建物の地震応答性状・耐震性能評価に与える影響の解析と実測  自重のみならず，地震，台風などの自然災害に対して，建物の安全性を確保し，人命を守ることが建築構造の重要な使命である。建物の構造性能の評価に加えて，自然現象から生じる外乱の建物への荷重効果を明確にし，建物の応答性状を精度良く評価することが課題である。構造力学，振動理論，最新の構造解析理論を用いた建物の応答性状を評価する方法を指導する。	

<p>(5 平石 久廣) 対象とする研究分野・テーマ：鉄筋コンクリート造の新構造技術に関する研究</p> <p>建築構造技術は日進月歩している。構造技術者はこれら新しい技術の情報を収集し理解するとともにその技術を取得し応用する能力が求められる。これら新しい技術に関する資料を収集し、理解・活用するための基本的な能力を養成することを目的としている。また、履修者それぞれが輪講形式で発表し、全員でディスカッションすることでコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。</p>	
<p>(6 小山 明男) 対象とする研究分野・テーマ：建築材料の品質と環境影響に関する研究</p> <p>建築材料に関する知識と研究的アプローチの方法について学ぶことを目的に、建築材料に関する研究を実施する。</p>	
<p>(7 高木 仁之) 対象とする研究分野・テーマ：RC、PC構造における梁・柱・耐震壁等の構造特性に関する研究</p> <p>異種材料を用いた構造物の代表としては、鉄筋コンクリート構造 (RC) があるが、さらに鉄筋に緊張力を与え長スパン化、軽量化としたプレストレストコンクリート構造 (PC) などが挙げられる。近年ではそれぞれの構造の利点を生かした異種構造を組み合わせた混合構造 (RC+S) (PC+S) の開発が進んでいる。研究では、今後開発が予想される異種材料混合構造の開発を推進し耐震安全性を実験および解析において研究する。</p> <p>研究の推進に当たって、既往の研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。</p>	
<p>(8 坂上 恭助) 対象とする研究分野・テーマ：水環境、建築設備、給排水設備についての研究</p> <p>給排水設備のシステム特性と諸現象を考察し、研究テーマを絞り込む。</p>	
<p>(9 酒井 孝司) 対象とする研究分野・テーマ：温熱・空気環境解析、自然エネルギー利用、蓄熱利用空調</p> <p>[建築内外の温熱・空気環境の制御・予測手法] 地球環境問題の顕在化に伴い、建物の環境負荷低減が極めて重要な課題となっている。建物における環境負荷の大部分は、建築環境・設備分野が担っており、長期的な対策を講じる必要がある。熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。環境負荷低減方法は、建物内の熱移動プロセスの基本的特性と気候特性の組み合わせにより構築される。従って、建築内外の物理現象を建築計画原論的なアプローチで個別に評価することが、新たな手法構築の基礎になると考えられる。これらを背景に、実測・数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。個別の研究テーマとして、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、熱・湿気移動現象の解明などが挙げられる。</p>	

		<p>(10 小林 正美)  対象とする研究分野・テーマ：GISによる都市構造の解析，アーバンインターベンション論，視覚的シーケンスに関する研究，「まちづくり」における「シャレットワークショップ」の実態と評価に関する研究</p> <p>具体的な目標  (1) 社会意識と広い視野の取得。  (2) 倫理と構想力を取得。  (3) 技術・設計能力を取得。  (4) 建築に関する専門的知識の取得。（一般的なものだけでなく、専門的な知識ベース）  (5) 技術的な知識の適用力の取得。</p> <p>&lt;概要&gt;  ・各学生は、指導教員との協議を通じて調査研究テーマを決定すること。  ・各学生は指導教員の下で調査研究を実施すること。  ・各学生は、定期的に指導教員に調査研究を報告し、話合うこと。  ・各学生は研究を通じて得られた知見をまとめ、最終審査会でこれを発表すること。</p>	
		<p>(11 小林 正人)  対象とする研究分野・テーマ：建築物の構造解析，構造設計および応答制御構造（耐震，免震，制振）に関する研究</p> <p>地震，台風，津波などに対して建物の居住性や安全性を確保するためには，これらの外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要である。本科目では，構造力学，振動・制御理論，各種デバイスをを用いた建物の構造性能の向上化，損傷制御およびこれらを保証する設計法に関する研究指導を行う。</p>	
		<p>(12 青井 哲人)  対象とする研究分野・テーマ：アジア都市史・住居史研究，植民都市・建築研究，近代建築史研究，近代神社の建築史的・環境史的研究</p> <p>建築史，都市史，建築論に関する課題を掲げて研究を行う。</p>	
		<p>(13 上野 佳奈子)  対象とする研究分野・テーマ：室内音環境の評価・設計法に関する研究</p> <p>建築音響学・環境心理学に関わるテーマについて，フィールド調査，実験室実験等を通じて研究を行う。人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること，人の行為に伴う環境の認知についてより深い理解を得ることを目指し，音響学，心理学のみならず認知科学等の関連分野についても見識を深める。</p>	
		<p>(14 波戸岡 景太)  対象とする研究分野・テーマ：トマス・ピンチョンを中心とした現代アメリカ文学・文化研究を専門とする。また、日米比較文化論的な観点から、ジャンル横断的なコンテンツ批評にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>博士論文を作成するにあたり最初に習得すべきこととは，各自の課題にそった文献リストを作成し，それを精査する方法である。本講義では，書誌情報の取り扱い，および，精査のプロセスについて，徹底的な指導を行う。</p>	
		<p>(15 鞍田 崇)  対象とする研究分野・テーマ：地球規模の環境・社会変化に伴う諸問題を克服する人文的アプローチ（環境人文学）の確立</p> <p>環境人文学は哲学的な思索力とデザイン的な表現力に立脚します。それらを培う基礎固めを行うのがこの授業の目的です。内容は基本文献の講読と、受講生の研究発表を中心として、的確な現状分析から説得力のあるコンセプトやビジョンを導出するための健全な批判精神の実践を学びます。</p>	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

学校法人明治大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度				平成29年度				変更の事由					
		入学定員	編入学定員	収容定員		入学定員	編入学定員	収容定員					
<b>明治大学</b>													
法学部	法律学科	800	—	3,200	法学部	法律学科	800	—	3,200				
商学部	商学科	1,000	—	4,000	商学部	商学科	1,000	—	4,000				
政治経済学部	政治学科	250	—	1,000	政治経済学部	政治学科	250	—	1,000				
	経済学科	610	—	2,440		経済学科	610	—	2,440				
	地域行政学科	140	—	560		地域行政学科	140	—	560				
文学部	文学科	415	—	1,660	文学部	文学科	415	—	1,660				
	史学地理学科	260	—	1,040		史学地理学科	260	—	1,040				
	心理社会学科	100	—	400		心理社会学科	100	—	400				
理工学部	電気電子生命学科	205	—	820	理工学部	電気電子生命学科	205	—	820				
	機械工学科	120	—	480		機械工学科	120	—	480				
	機械情報工学科	120	—	480		機械情報工学科	120	—	480				
	建築学科	150	—	600		建築学科	150	—	600				
	応用化学科	110	—	440		応用化学科	110	—	440				
	情報科学科	110	—	440		情報科学科	110	—	440				
農学部	数学科	55	—	220	農学部	数学科	55	—	220				
	物理学科	55	—	220		物理学科	55	—	220				
	農学科	130	—	520		農学科	130	—	520				
	食糧環境政策学科	130	—	520		食糧環境政策学科	130	—	520				
	農芸化学科	130	—	520		農芸化学科	130	—	520				
経営学部	生命科学科	130	—	520	経営学部	生命科学科	130	—	520				
	経営学科	400	—	1,600		経営学科	400	—	1,600				
	会計学科	150	—	600		会計学科	150	—	600				
情報コミュニケーション学部	公共経営学科	100	—	400	情報コミュニケーション学部	公共経営学科	100	—	400				
	情報コミュニケーション学科	450	—	1,800		情報コミュニケーション学科	450	—	1,800				
国際日本学部	国際日本学科	350	—	1,400	国際日本学部	国際日本学科	350	—	1,400				
総合数理学部	現象数理学科	80	—	320	総合数理学部	現象数理学科	80	—	320				
	先端メディアサイエンス学科	100	—	400		先端メディアサイエンス学科	100	—	400				
	ネットワークデザイン学科	80	—	320		ネットワークデザイン学科	80	—	320				
計				6,730	—	26,920	計				6,730	—	26,920
<b>明治大学大学院</b>													
法学研究科	公法学専攻(M)	20	—	40	法学研究科	公法学専攻(M)	20	—	40				
	公法学専攻(D)	6	—	18		公法学専攻(D)	6	—	18				
	民法法学専攻(M)	20	—	40		民法法学専攻(M)	20	—	40				
	民法法学専攻(D)	6	—	18		民法法学専攻(D)	6	—	18				
商学研究科	商学専攻(M)	35	—	70	商学研究科	商学専攻(M)	35	—	70				
	商学専攻(D)	6	—	18		商学専攻(D)	6	—	18				
政治経済学研究科	政治学専攻(M)	25	—	50	政治経済学研究科	政治学専攻(M)	25	—	50				
	政治学専攻(D)	5	—	15		政治学専攻(D)	5	—	15				
	経済学専攻(M)	35	—	70		経済学専攻(M)	35	—	70				
	経済学専攻(D)	7	—	21		経済学専攻(D)	7	—	21				
経営学研究科	経営学専攻(M)	40	—	80	経営学研究科	経営学専攻(M)	40	—	80				
	経営学専攻(D)	8	—	24		経営学専攻(D)	8	—	24				
文学研究科	日本文学専攻(M)	6	—	12	文学研究科	日本文学専攻(M)	6	—	12				
	日本文学専攻(D)	2	—	6		日本文学専攻(D)	2	—	6				
	英文学専攻(M)	6	—	12		英文学専攻(M)	6	—	12				
	英文学専攻(D)	2	—	6		英文学専攻(D)	2	—	6				
	仏文学専攻(M)	6	—	12		仏文学専攻(M)	6	—	12				
	仏文学専攻(D)	2	—	6		仏文学専攻(D)	2	—	6				
	独文学専攻(M)	6	—	12		独文学専攻(M)	6	—	12				
	独文学専攻(D)	2	—	6		独文学専攻(D)	2	—	6				
	演劇学専攻(M)	6	—	12		演劇学専攻(M)	6	—	12				
	演劇学専攻(D)	1	—	3		演劇学専攻(D)	1	—	3				
	文芸メディア専攻(M)	6	—	12		文芸メディア専攻(M)	6	—	12				
	史学専攻(M)	25	—	50		史学専攻(M)	25	—	50				
	史学専攻(D)	6	—	18		史学専攻(D)	6	—	18				
	地理学専攻(M)	5	—	10		地理学専攻(M)	5	—	10				
	地理学専攻(D)	2	—	6		地理学専攻(D)	2	—	6				
	臨床人間学専攻(M)	14	—	28		臨床人間学専攻(M)	14	—	28				
	臨床人間学専攻(D)	4	—	12		臨床人間学専攻(D)	4	—	12				
	理工学研究科	電気工学専攻(M)	75	—		150	理工学研究科	電気工学専攻(M)	82	—	164	定員変更(7)	
		電気工学専攻(D)	6	—		18		電気工学専攻(D)	6	—	18		
機械工学専攻(M)		77	—	154	機械工学専攻(M)	86		—	172	定員変更(9)			
機械工学専攻(D)		7	—	21	機械工学専攻(D)	7		—	21				
建築学専攻(M)		76	—	152	建築学専攻(M)	0		—	0	募集停止			
建築学専攻(D)		5	—	15	建築学専攻(D)	0		—	0	募集停止			
応用化学専攻(M)		35	—	70	応用化学専攻(M)	40		—	80	定員変更(5)			
応用化学専攻(D)		5	—	15	応用化学専攻(D)	5		—	15				
基礎理工学専攻(M)		61	—	122	基礎理工学専攻(M)	0		—	0	募集停止			
基礎理工学専攻(D)		10	—	30	基礎理工学専攻(D)	0		—	0	募集停止			
新領域創造専攻(M)		35	—	70	新領域創造専攻(M)	0		—	0	募集停止			
新領域創造専攻(D)		5	—	15	新領域創造専攻(D)	0		—	0	募集停止			
						建築・都市学専攻(M)		80	—	160	専攻の設置(届出)		
					建築・都市学専攻(D)	7	—	21	専攻の設置(届出)				

					情報科学専攻(M)	40	—	80	専攻の設置(届出)
					情報科学専攻(D)	3	—	9	専攻の設置(届出)
					数学専攻(M)	15	—	30	専攻の設置(届出)
					数学専攻(D)	3	—	9	専攻の設置(届出)
					物理学専攻(M)	16	—	32	専攻の設置(届出)
					物理学専攻(D)	3	—	9	専攻の設置(届出)
農学研究科	農芸化学専攻(M)	26	—	52	農学研究科	農芸化学専攻(M)	26	—	52
	農芸化学専攻(D)	2	—	6		農芸化学専攻(D)	2	—	6
	農学専攻(M)	20	—	40		農学専攻(M)	20	—	40
	農学専攻(D)	2	—	6		農学専攻(D)	2	—	6
	農業経済学専攻(M)	8	—	16		農業経済学専攻(M)	8	—	16
	農業経済学専攻(D)	2	—	6		農業経済学専攻(D)	2	—	6
	生命科学専攻(M)	26	—	52		生命科学専攻(M)	26	—	52
	生命科学専攻(D)	2	—	6		生命科学専攻(D)	2	—	6
情報コミュニケーション研究科	情報コミュニケーション学専攻(M)	25	—	50	情報コミュニケーション研究科	情報コミュニケーション学専攻(M)	25	—	50
	情報コミュニケーション学専攻(D)	6	—	18		情報コミュニケーション学専攻(D)	6	—	18
教養デザイン研究科	教養デザイン専攻(M)	20	—	40	教養デザイン研究科	教養デザイン専攻(M)	20	—	40
	教養デザイン専攻(D)	4	—	12		教養デザイン専攻(D)	4	—	12
先端数理科学研究科	現象数学専攻(M)	15	—	30	先端数理科学研究科	現象数学専攻(M)	20	—	40
	現象数学専攻(D)	5	—	15		現象数学専攻(D)	5	—	15
						先端メディアサイエンス専攻(M)	45	—	90
						先端メディアサイエンス専攻(D)	6	—	18
						ネットワークデザイン専攻(M)	36	—	72
						ネットワークデザイン専攻(D)	3	—	9
国際日本学研究科	国際日本学専攻(M)	20	—	40	国際日本学研究科	国際日本学専攻(M)	20	—	40
	国際日本学専攻(D)	5	—	15		国際日本学専攻(D)	5	—	15
グローバル・ガバナンス研究科	グローバル・ガバナンス専攻(D)	5	—	15	グローバル・ガバナンス研究科	グローバル・ガバナンス専攻(D)	5	—	15
明治大学法科大学院					明治大学法科大学院				
法務研究科	法務専攻(P)	120	—	360	法務研究科	法務専攻(P)	120	—	360
明治大学専門職大学院					明治大学専門職大学院				
ガバナンス研究科	ガバナンス専攻(P)	55	—	110	ガバナンス研究科	ガバナンス専攻(P)	55	—	110
グローバル・ビジネス研究科	グローバル・ビジネス専攻(P)	80	—	160	グローバル・ビジネス研究科	グローバル・ビジネス専攻(P)	80	—	160
会計専門職研究科	会計専門職専攻(P)	80	—	160	会計専門職研究科	会計専門職専攻(P)	80	—	160
計		1,239		2,728	計			1,330	2,915